

卷頭言

Preface



高松田村町教会 唐渡 弘

あなたがたが実を豊かに結び、そしてわたしの弟子となるならば、それによって、わたしの父は栄光をお受けになるであろう。ヨハネ十五章八節

読者の皆様。主にある希望をもつて、新年度の

教会学校活動のため、祈り備えておられたと思います。教会教育の働きの祝福を願うとき、私たちがキリストにつながっていれば、聖句のように「実を豊かに結び、父は栄光をお受けになる」との約束が与えられていることを、まず感謝します。

私たちは、キリストにつながってどのような実を結ぶのでしょうか。「罪をゆるされ、悔い改めの実を結び」、「キリストにつながり、御靈による品性の実を結び」、「キリストの福音を伝えて、救靈の実を結ぶ」と教えられてきました。どんなに豊かな実であり、父なる神様の栄光となることでしょうか。これが、キリストの教会の姿であります。神の国の姿が映されている教会の姿です。

私たちは、キリストの教会を作るために、神

様に選ばれた神の民です。神様への礼拝を守り、神様の祝福を人々にもたらすために選ばれた民です。こひつした礼拝と宣教の使命を果たす神の民の教育は、毎週の礼拝の説教を通して、祈祷会の聖書の学びを通して、家庭や個人の祈りとみ言葉への聴従を通して行われています。牧師先生は、このために苦心をし、教会教育に携わる人々は、祈り苦心しております。そして、その苦心には報いがあります。

私は十八年前に、障がいの方々が毎週、礼拝を守れる教会をつくる使命を与えられました。障がいの方々と身近に接して、障がいの方々を理解していかなかったことに気付きました。それから、苦闘が始まりました。そして、苦しみの中で、神様を仰きましたとき、「その人の必要に答える神様を仰きましたとき」、その人の必要に答える神様を読み、祈りをさせていただきよう」に導かれました。その導きに従って聖書を読み、祈りをさせたとき、その人と心が通じました。それから、毎週、その方々の所をおたずねすることが楽しみとなり、今日に至りました。一人の人を大切にし、お交わりをするところから、また、一人の子どもを大切にして接するところから、教会教育は実を結んでいくのであると信じます。

牧羊者

目次

卷頭言	目次
カリキュラム	カリキュラム解説
二〇一五—二〇一三年度	「今、求められるCSS教師」
カリキュラム解説	教師養成講座
旧約聖書①「創造」	旧約聖書①「創造」
キリストの受難・復活	キリストの受難・復活
旧約聖書②「人間の墮落」	旧約聖書②「人間の墮落」
牧羊ひろば（福岡教会）	牧羊ひろば（福岡教会）
おわりに	おわりに

〔凡例〕

1、原語について…ギリシャ語は[ギ]、ヘブル語は[ヘ]、アラム語は[ア]で表記しています。

2、礼拝メッセージ例の最後の「さんび」の略記について
「ホーリネス」「ホ・」「インマヌエル」「イン・」…インマヌエル教会学校出版局
「日キ・」…日本キリスト教団出版局

98 93 51 27 15 6 4 3 2 1

カリキュラム (二〇一一年四月～六月)

キリストの救いを知つて

ヨハネ1・29

●旧約① 創造

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
4月3日 進級式	天地創造の神	創世記1・1～31	同上1
10日 神のかたちに 造られた人間	創世記1・26～31	同上27	

●キリストの受難・復活

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
4月17日 棕櫚の日	十字架による 救いの完成	ヨハネ19・28～30	同上30

●旧約② 人間の墮落

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
5月15日	罪の起源	創世記2・15～17	同上2・17
22日	罪の結果	創世記3・6～19	ローマ6・23

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
6月5日	救いの道	創世記3・14～24	同上21
12日 花の日	神に喜ばれるささげ物	創世記4・1～8	マル11・4

行事	テーマ	聖書	暗唱聖句
19日 父の日	聖霊の恵みを求める	使徒1・3～8	同上8
19日 父の日	天の父の愛	マタイ5・43～48	同上45

4月24日 イースター 復活の主による喜び① ヨハネ20・11～18 同上15

5月1日 復活の主による喜び② ヨハネ20・19～23 同上20

8日 母の日 両親に仕える神の御子 ルカ2・41～52 同上51

一一〇一～二〇一三年度 カリキュラム解説

ました。

①新約聖書

毎年度、「受難・復活」→「使徒の働き・黙示録（二〇一三年度のみ）」→「キリストの宣教・教え・働き」→「クリスマス」→「十字架への道」といった流れを繰り返すように編成しました。

②旧約聖書

創世記から歴史的流れに沿って、三年間で一巡するようになに編成しました。

・一一〇一～年度

①創造、②人間の堕落、③アブラハム・イサク、④ヤコブ・ヨセフ

⑤十戒（母の日に合わせて）、⑥モーゼ、⑦ヨシュアと士師たち、⑧サムエルと王たち

・一一〇一～三年度

⑨預言者、⑩捕囚期、⑪詩歌

昨年度『牧羊者』は、伝道的・基本的単年度カリキュラムとして、特別に編成されました。今年度からは、通常の三年サイクルのカリキュラムに戻ります。新しい三年カリキュラムは、以下のような方針に基づいて作成されています。よくご理解頂いた上で、各教会学校の現場で有効にお用い頂きたいと思います。

（1）基本的な教会暦を踏まえた

従来どおり、イースター、ペンテコステ、クリスマス・アドベントの他、母の日、父の日、新年等、基本的な教会暦や記念日、節目の日等を踏まえるようにしました。

（2）旧新約聖書の流れを重視した

旧新約聖書の流れを重視したカリキュラム編成を心がけ

（3）単元の区切りは適宜行なった

単元の区切りは、無理に月単位とせず、カリキュラムの流れに沿つて、適宜行ないました。

(4) 聖書箇所はできるだけ基本的な箇所を選んだ

三年カリキュラムの中で、聖書箇所が重複しないようにしつつ、できるだけ基本的な箇所を選ぶようにしました。但し、二〇一〇年度単年度カリキュラムとの重複は避けられないと判断しました。ご了解ください。

(5) 暗唱聖句はできる限りふさわしいものを選んだ

暗唱聖句は、できるだけ暗唱するにふさわしいものを選びましたが、聖書箇所によつては、「中心聖句」としての意味合いが強くなつたものも出てきました。

(6) 各年度テーマを設定した

(1)～(5)の方針の結果、カリキュラムの概要が定まりました。いずれも基本的な聖書箇所を選んでいます

ので、テーマとしては重複する部分が多くなつたのは事実です。しかし、たまたまのことではありますがある程度、年度ごとの特色も生まれました。その特色を生かす形でテーマ設定をしました。

・二〇一一年度「キリストの救いを知つて」

ヨハネ1・29

・二〇一二年度「キリストの恵みに応えて」

マタイ21・3

・二〇一三年度「キリストにある生涯」

マルコ5・17

三つのテーマは、重なり合うものになつています。これは、実際、各年度のカリキュラム内容（テーマ）が重なつてゐることを反映しています。同時に、浮かび上がつてきた各年度の特色を、ある程度は表現したつもりです。全体としては、キリスト中心のカリキュラムとなつています。

「今、求められるCS教師」

CS局次長 長田栄一

—1009年度 大阪教区 CS教師研修会発題より—

聖書朗読 ヨハネ21・15～17

第一部 いつの時代にも求められる

CS教師

1、働きの原点に帰る－なぜ教会学校の働きをするのか (Why)

の子シモンよ、あなたはこの人たちが愛する以上に、わたしを愛するか。ペテロは答えます。「主よ、そうです。わたしがあなたを愛することはあなたがたご存じです。これに対しても、イエス様は告げられます。「わたしの小羊を養いなさい」。

このような会話が一度ならず、二度まで繰り返されます。三度目、「わたしを愛するか」と問われたとき、ペテロは「心をいためて」イエス様に答えたと言います。

「心をいためて」…。恐らくペテロは、イエス様が裁判の席上にあるとき、自分が三度イエス様を知らないと言つた時のことと思い出したに違いありません。心痛めつつ、やつとの思いで答えます。「主よ、あなたはすべてをご存じです。わたしがあなたを愛していることは、おわかりになっています」。この時、イエス様は三度目にペテ

教師養成講座

口に語られるのです。「わたしの羊を養いなさい」。

どうしてC S教師をするのか、ここに原点があります。自分でも知らないでいた自分の罪深さを知ったとき、改めて、そのような自分を愛し、赦してくださるイエス様の愛を知ります。このイエス様が、私たちを赦しきよめ、ご自身のわざに用いようとして語ってくださるのです。「わたしの羊を養いなさい」と。

私たちがC S教師になつたきっかけは様々です。教会の牧師から「C S教師が足りないのだ、なつてみないか」と言われたかもしれません。「子どもは嫌いでないし、だから…」ということだったかもしれません。しかし、C S教師の働きは決して楽なものではありません。時間も取られます。忍耐も必要です。では、なぜ私たちはC S教師であり続けるのでしょうか。

私は大学生の時からC S教師をさせて頂きました。青年会の先輩から「やつてみないか」と声をかけられたのがきっかけでした。頼まれたら断れない性格でしたので、お引き受けしたのです。しかし、実のところ、その時の私は、救いの確信がありませんでした。当然ながら、しぶしぶの奉仕だったと思います。

ところが、教会生活が進むうちに、心に渴きが起つてきました。本物の信仰に対するあこがれが起つてきました。同時に自分の罪深さが示されてきました。聖書の言葉が内側にどんどん示されてきました。罪が分かり、苦しくなりました。その時、幼い時から聞いてきたはずの十字架のメッセージが自分自身に対するものとして聞こえてきたのです。「御子イエスの血が、すべての罪からわたしたちをきよめるのである」(ヨハネ1・7)。大きな感激でした。

その頃から、しぶしぶの奉仕から、「こんな者でも神様のために何かできるなら、させて頂きたい」という思いに変わりました。自分なりに積極的に奉仕に取り組むようになりました。

具体的な状況の差はあれ、皆さんも根本的には同じではないでしょうか。この所で、もう一度私たちの働きの原点を見直してみたいと思います。私たちを愛して、十字架に死んでくださったイエス様。そのイエス様が語られます。「わたしが愛している羊たちを養つてくれるだろうか」。このイエス様の招きの御声を、私たちも聞き直したいと思います。

2、働きの本質を知る——働きの目標はなににあるのか（What）

CS教師としての働きは様々です。メッセージ、分級の準備、イベントの準備…。ゲームを準備したり、お菓子を袋に詰めたり、いろいろです。そのすべては何を目ざしているものなのでしょうか。

「わたしがきたのは、羊に命を得させ、豊かに得させるためである。わたしはよい羊飼いである」。

（ヨハネ10・10～11）

私たちが羊飼いになる前に、イエス様が羊たちのための良い羊飼いであることを、まず覚えましょう。イエス様は、羊飼いとして働くとする私たちの模範となつてくださいます。

①「羊に命を得させ」

神様から離れ、神様を知らずに生きる人々は、迷える羊です。聖書が示すところによれば、命の源である神様か

②「豊かに得させるためである」

羊が命を得たら、その後、その羊が健康に成長していくように助けること、これが羊飼いの二番目の役割です。命は持っているものの、栄養が足りず、やせ細つている、病気で弱つてしまっている、そうならないようになる働きです。み言葉の糧を与え、愛情をもつて育てるということ、これが羊飼いのもう一つの役割と言えるでし

ら離れた結果、靈的に死んでさえいると言います。そういう彼らに命を得させること、これがイエス様のご目的でした。そして、それは同時に、私たちCS教師の目的でもあります。

今年度（二〇〇九年度）の大坂教区バイブルキャンプでは、一人の高校生が涙ながらに証をしていたのが心に残りました。教会行事への参加は初めてのようでしたがないで、自分を愛せるようになつた」と証ししておられました。こういうところに、私たちの働きの目標があるのでないでしょうか。

よう。

3、働きに必要なことを知る— どのように働きをしたらよいのか（How）

CS教師としての経験を積むこと、聖書知識を蓄えることも大切です。特に最初は「形」をまねることも必要でしょ。しかし、今日特に覚えて頂きたいことは、「羊飼いの心」を持つということです。

ヨハネ10章1～15節に、羊に関わる二種類の人々の姿が示されています。「羊飼い」と「雇い人」です。彼らの違いはどこにあるのでしょうか。

「彼は自分の羊の名をよんでも連れ出す。：羊はその声を知っているので、彼について行くのである」（ヨハネ10・3～4）。羊との「人格的」とも言うべき関係を持つているかどうか、です。

「よい羊飼は、羊のために命を捨てる。羊飼ではなく、羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが来るのを見ると、羊をすべて逃げ去る」（ヨハネ10・11～12）。羊のために犠牲を払うかどうか、です。

「彼は雇人であつて、羊のことを心にかけていないからである」（ヨハネ10・13）。羊を心にかけているかどうか、です。

私たちがCS教師としての働きをどう進めていくたらよいのか、その秘訣がここにあります。「羊飼いの心を持つて働く」ということです。

子どもたち一人ひとりのことを心にかけ、その名前を覚えて神様に祈り、人格的な関わりを持つことです。彼らのため喜んで時間を割き、労することです。そういうことが自然と出て来るような「羊飼いの心」を持つことです。

「その心がない」、「そういう心がないわけではないが、不足しているかも」：そうであるならどうしたらよいでしょうか。大牧者なるイエス様を見上げましょう。このお方から羊飼いの心を与えて頂き、また豊かにして頂くことができます。

第二部 今、求められるCS教師

聖書朗読　I コリント9・19～23

「今」という時代は、どういう時代でしょうか。子どもたちを取り巻いている環境は、変わっています。私の子ども時代には、ゲームも携帯もインターネットもありませんでした。時代はどんどん変わってきていました。そういう中で、「今の時代に求められるCS教師とは何か」ということも、考える価値のあるテーマを感じます。

1、今の時代のチャレンジに応えるCS教師

「今求められるCS教師」ということで、いくつものことが言えるかと思いますが、今日は一つの点にだけ絞りたいと思います。一言で言うと、「今の時代のチャレンジに応えるCS教師」ということです。

パウロは書きました。「すべての人に対しでは、すべての人のようになった。なんとかして幾人かを救うためである。福音のために、わたしはどんな事でもする」。

(I コリント9・22～23)

どんどん変わっている状況の中で生きている子どもたち。そういう彼らの状況をよく見極める必要があります。そして、今の子どもたちに届いていくためには、パウロのように、「福音のために、わたしはどんな事でもする」というチャレンジ精神を持つことが必要になってしまいます。そののではあります。

実際、日本の教会学校もどんどん変化しつつあります。恐らくはどんどん変化しつつある子どもたちの状況に対応したことだと思います。皆さんの教会学校の現場でも、ある程度はそのことを意識されているかもしれません。日本の教会学校の現状をよく調べている方々からすると、本当に多くの変化が起こってきているようです。

レジュメに、参考として一冊の本から引用しています。『21世紀教会学校ハンドブック』(CS成長センター)からのものです。執筆者は四人の先生方で、教会学校の分野で用いられている先生方のようです。「第1章 教会学校の基礎と21世紀の方向性」の「VI 日本の教会学校の展望」の内容をご紹介します(30～33頁参照、太字部分は書籍より引用の小見出し。解説は私なりのもの)。

教師養成講座

・学校から、多様化したあり方へ

「名称の変化」です。「教会学校」が「ドンキークラブ」や「ジョイフルキッズ」などと呼び名が変わってきています。それに伴い、活動内容も多様化してきています。

・大人と同じ礼拝の形式から、子どもたちのニーズに合った集会へ

「礼拝の形式の変化」です。礼拝形式が多様化し、子どもたちのニーズに合わせたものになつてきています。

・学び重視から、交わり重視へ

「分級のあり方の変化」です。聖書の学び重視だったのが、おやつを食べたり、ゲームや遊びを取り入れたりしています。

・教会暦にそつた行事から、イベントへ

「行事の変化」です。「イースター」や「花の日」といった、教会暦による行事から、「アイスクリームパーティー」や、「わいわいフェスティバル」といった、イベント型の行事が増えています。

・決まった時間帯から、多様化した時間帯へ

「時間帯の変化」です。日曜日朝九時から十時の時間帯から、大人と子ども一緒のファミリー礼拝になつたり、

礼拝と同時に子ども礼拝が行なわれたり、といったことが起こっています。

・子どものためのプログラムから、親子のための総合的なプログラムへ

「ターゲットの変化」です。子どもたちだけをターゲットにした働きから、親子をターゲットにしたプログラムが増えていました。

大げさに言えば、教会学校のあらゆる分野で変化が起こつてきていると言つてもよい現状があります。これらの変化は、時代のチャレンジに答えようとして生れてきた苦闘の結果と言えるでしょう。

2、時代のチャレンジに応えていくためのいくつかのポイント

私は、堺栄光教会に赴任してまだ二年目です（二〇〇九年当時）。赴任当初、びっくりすることが多くありました。従来の教会学校のあり方とは随分違うものだつたからです。最初の一年くらいは、ついていくのに精いっぱいと

いう感じでした。その内、「時代のチャレンジに応えよう」として取り組んできた結果」と受け止めるようになります。今後、更に検討していくべき課題が沢山あるのも事実です。しかし、大胆に取り組んできたそのスピリットを、まずはしっかりと受け止めたいと考えています。時代のチャレンジに応えていこうとする場合、新しい取り組みを始めようとすれば、多くの困難が生じることも予想されます。この点について、特に、堺栄光教会での教会学校の取り組みを見ながら、考えたことをまとめてみました。

①本質を見失わない

行なつていることが何を目ざすものなのか、目標を明確にすることが大切です。伝道のためなのか、養育のためなのか、礼拝のためなのか。働きの本質を見極めつつ、進むことです。

②子どもたちの心に近づく

私たちの働きは、靈的な働きです。ですから、当然、彼らの心が神様によって触れられ、変えられていくことを期待します。問題は、どうしたら彼らの心に近づくことができるのかということです。

子どもたちの心に近づくことができずに、彼らの心に届かない形で働きを続けているのではないか。そんな反省も、時には必要かもしれません。

③み言葉の生活化を求める

み言葉の学びが知識の伝達で終つてしまつていなかといふ点も、大切な反省材料になります。み言葉によつて彼らの心が変えられ、生活が変えられていつてゐるか、正直に見つめ直す必要があります。その中から、例えば、メッセージは、より適用重視にするようにチャレンジが与えられるかもしれません。あるいは、分級に体験的要素を取り入れてみたらという提案が生まれるかもしれません。日曜日だけない、平日からの「デイボーラー」訓練を真剣に考えていくことも大切です。

④大人の礼拝と子どもの礼拝の関係を再考する

子どもの礼拝をどう考えるかという点では、本当に多様化が進んでいます。月に一回、大人と子ども一緒にファミリー礼拝するところは、かなり多くなっているように思います。毎週の礼拝は、大人も子どもも参加すべき礼拝と位置付けるところもあります。大人も子どもも二部礼拝にして、CS教師は担当のCS礼拝以外の時間で礼拝するという所もあるようです。

教会によって状況が違いますので、自分のところではどういうあり方が最善か、よく状況を見据えながら、再検討してみる必要もあるでしょう。

⑤丁寧にイエス様に結びつける

これは、牧師の問題になることもあります。「子どもだから、洗礼準備会を簡単に」ということが、私自身あつたような気がします。牧師だけでなく、教会学校の働きの中でも、この点をよく考えてみる必要があります。

キャンプで決心した、その後のフォローはどうするのか、

牧師任せでなく、教会学校としての取り組みを考えることも、時には必要ではないでしょうか。

堺栄光教会では、キャンプで信仰決心した子に対しては、教師が一人ついて、一対一の学びを始めます。学びの内容は今後もつと検討する余地があると思いますが、その姿勢は私自身、大いに教えられています。

以上、私なりのポイントを挙げてみました。皆さんにも考えて頂いたら、さらにいくつかのポイントを挙げることができるとも思ひません。要所要所、ポイントを押さえながら、時代の挑戦に大胆に答えていつて頂きたいと思います。

3、今の時代にも働く神様に期待して

最後に、「祈り」ということを取り上げて発題を終りにしたいと思います。今の時代の様々なチャレンジを見据えながらも、実はこれこそが、今の時代にも大切なのはないかと感じています。

私たちが信じる神様は、当然のことですが、今の時代

にもお働きになることができる神様です。更に、私たちの働きが靈的な働きであるとすれば、これは、単に人間的な努力でできる働きではないことも、当然のことです。

聖靈が子どもたち、若者たちの心に働いてくださって、初めて進んでいく働きであると言えます。ですから、祈りが必要なのです。

時代が変わつても変わらないこの事実に目を留めながら、もう一度この基本に立ち返らせて頂きたいと思います。「祈りへのチャレンジ」として、四つ挙げさせて頂きま

えられるよう、また教会全体が一致を持つて進めるよう、十分な祈りをもつて進んで頂きたいと思います。

③一人ひとりがイエス様にしつかりと結びつくことを祈ろう

「羊に命を得させ、豊かに得させるため」、単に数を求めるのではなく、一人ひとりがしつかりとイエス様に結びつくことができるよう、そこに焦点を合わせて祈りましょう。

④一致の中に働かれる聖靈、心を合わせて祈ろう

ベンテコステの日、弟子たちは「心を合わせて…祈をしていた」（使徒行伝1・14）、そこに聖靈がくだりました。聖靈は一致のあるところに働かれます。ぜひ各教会の教師会でも、祈りを重んじて頂きたいと思います。

①子どもたちの名前を挙げて祈ろう

金井由信先生は、著書『実を結ぶ教会学校』（ベラカ出版）の中で、「CS教師の心得」の一つに、「生徒のために毎日15分祈る」と挙げられています。いかがでしょうか。

②人間的な知恵でなく、神様からの導きと知恵を求めて祈ろう

この危機的な時代にあって、今も神様は働こうとしておられます。時代のチャレンジに答えつつ、神様に大きなことを期待しながら、前進させて頂きましょう。

聖書 創世記1・1～31 テーマ 天地創造の神

序論

(金井信)

新年度、また新しく三年のカリキュラムを始めるにあたり、聖書の冒頭を学びます。ここに私たちの信仰生涯の確かな基盤があります。

一、「はじめ」がある

真理を求めて聖書を学ぼうとする人、悩みを抱えて飛び込んでくる人、あるいは何の気なしに開く人と、聖書を開きつかけはさまざまです。しかし、まず目に飛び込んでくるのは、(「はじめに神」という言葉です。

私たちが何かをしたり、考えたりできるのも、はじめに神がこの世界を造られたからです。人間のあれこれに先立つて、そして、それをはるかに超えて神が御手をもつてすべてを治めておられる宣言がここにあります。

また、〈光あれ〉の言葉に続いて天地創造の御業が進められます。私たちが目にする世界のすべてのものに始まりがあり、またそこには神の関与がありました。すべて造ら

二、秩序が定められた

神が命じられると、(そのようになつた)と、繰り返されながら、創造の御業が進められています。「科学」の「科」は「区分」の意味ですが、神が定められた世界の秩序を、私たち人間が調べ確かめているわけです。ですから、科学を研究する方々の中で、「これは偶然に生じたとは考えられない」と、創造者への関心を持つ方が起こされて当然です。また、大宇宙についての研究と、極微小な世界とが結びついているという最新の知見も、興味深いものがあります。

何より、神の定めた秩序には、当然ながら無理なところも不自然なところもありません。もの皆すべてが「ありの

まま」でいられるのです。それぞれがおるべきところにおり、なすべきことをなしているようにと神は定められました。

最後に人間が創造されます。人間も、この神の定められた秩序の中で与えられた生き方をしていれば、何の不足も不自由もなかつたはずです。ただ、何の波乱もなければ、物語は進みませんし、聖書は二ページで終わつてしまいます。また、私たちの現実に突きつけられている課題への解決もありません。この秩序が今なぜ崩れているのか、定められた神は、いつたいどこに行つてしまつたのか、今度は疑問がわきあがります。

三、神の目にかなう世界

「はなはだ良かつた」これが、造られた世界を御覧になつた神の評価です。不完全なものしか生み出せず、仮に「完璧だ」と思える作品ができても、高慢になつたり、人を批判してしまうような私たちとは全く違います。

また、私たちは自分の作品に少々難があつても、「あばたもえくぼ」と考えたり、「個性だ」と主張しますが、「極めて良かつた」とは情緒的なものではなく、冷静厳格な評

価です。この評価が、神のひいきや立場上からのものであるとすれば、後の赦しと回復があいまいになつてしまます。

「極めて良かつた」はずのこの世界は、今、私たちの目には悪いことばかりが映ります。もちろん天の神も心を痛めておられます。人間なら投げ出しても仕方がない状態ですが、神はご自分の作品を愛し通されます。愛によつて、さらに良いものにしようとされます。それが続いて記されていく聖書の歴史であり、神の救いのご計画です。

やがて来られる救い主によつて神のもとに立ち返つた者が、ありのままでいられる自分を喜び、また共に神に造られたお互いを良いものとして受け入れていきます。神の作品として造り主をたたえ、感謝するだけではありません。自分の罪のために汚れ、傷んでしまつたものを清めいやして、再び「極めて良い」と受け入れてくださつた恵みをたたえる、さらに深い主との交わりに導かれていくのです。

結論

神の創造の秩序の中で「極めて良い」とされていることを喜び、ありのままで主に近づき、主を喜びましょう。

3日 研究資料

研究資料

(井上義)

本日は、新年度の始まりにふさわしく、聖書全巻の第一章である。ヘブル語聖書、創世記の原題は、本文の最初の言葉である「[ヘ]ベレーシス」である。七十人訳ギリシャ語聖書では、「ゲネシス」と訳され、英訳聖書では「ジエネシス」である。

テキスト

1 神は天と地とを創造された 創造された（[ヘ]バーラー）
 ヘブル語には他にも創造と訳される単語はあるが、バーラーは神による創造以外に用いられない。人の手による制作とは全く次元が異なり、無から有を生み出す神の業であることを表わす。創造はただ、神の絶対的な意思によるものであり、人がうかがい知るものではない。全宇宙の事物は神の被造物であるので、天地は神ではない。自然界のあらゆる生物も神ではない。神は創造された、とあるが、第一位置の父なる神だけではなく、三位一体の神が創造に関与されている。ヨハネ1・3には「すべてのものは、これによつてできた」と記されている。イエスが創造の指導的な立場であることを示唆している。2節「神の靈が…おおつっていた」とある。聖靈がすべて関わったのである。はじ

めに とあるが、神の創造の業がなされた時に、時が刻まれ始めたのである。創造は物質の始まりであり、時間の始まりでもある。

3 神は「光あれ」と言われた 神は創造のすべてを言葉によって命じられ、その業をなされた。神の言葉がどれほど力あるものかを知る。光はエネルギーを持ち、やみを追いやりるものである。**第一日（[ヘ]ヨーム シャード）** 日を表わすヨームという名詞と序数の一を表わすシャードが組み合わされている。この一日を二十四時間と見るか、さらに長い期間と見るのかという論議があり、単純に現在の一日とは言い切れない。ヨームは旧約聖書に多用され、訳語は五十以上に及ぶ。時代、永遠などの意も含まれる。全能の神による創造であるから、期間の長短を定めようとすることはあまり意味のない論議であろう。

7 おおぞらの下の水とおおぞらの上の水とを分けられた
 地球の特徴は水の惑星である。大気は気体だけではなく、水の粒子でできた雲を持ち、水は空と地上（海や川）とを循環している。

9 かわいた地が現れよ 地上はすべて水で覆われていたが、陸と海が区分された。陸上に植物が生まれた。今まで無生物であったが、生命を持つ生き物が生まれた。植物

は光合成を行い、食物連鎖の基礎となり、他の生物の食物となる。

11 種類にしたがつて

神は種類という区分を造られた。近年は生命科学が発達し、遺伝子操作も可能になった。人間の當利、独善によつて神の秩序、神の領域を乱してはならない。

14 天のおおやりに光があつて

神は精密な天体の運行を定められた。一日、一週間、一月、季節、一年という秩序正しい期間を設けられた。神は人間に、日を数えることを教えられている。

20 水は生き物の群れで満ち、鳥は地の上、天のおおやりを飛べ

神は初めて動く生き物を形づくられた。最初に造られた動物は、水中の魚類や哺乳類、空中の鳥類である。地上の動物の創造は、その後にな。

22 神はこれらを祝福して言われた

神の祝福は特に旧約においては、繁栄と結びついている。動物においては子孫が多く与えられる」とである。

24 家畜と、這つものと、地の獸とを種類にしたがつて言わせ

だせ 地上の人間以外の生き物が造られた。家畜、爬虫類、その他の動物という分類である。彼らの間に争いはなく、支配するものはまだ現れていなかった。

26 われわれのかたちに、われわれにかたどつて人を造り

：おおやり 創造の最終段階であり、最高の被造物として、神にかたどつて人間が造られた。かたどるとは外的な形の引き写しではない。神と交わることのできる靈的な存在こそが、神のかたちを引き写す証である。人間もまた被造物があるので神ではない。しかしながら、神との類似性を持つものとして人間は形づくられた。他の動物にはない、自分は何者なのかという自意識を持ち、人格性を備えている。自分の行動に責任が伴う自由を持ち、道徳性が備えられている。他の被造物の支配を可能にする理性と、知性を兼ね備えている。人間は神から与えられた良い賜物を生かして、神に地上の統治を委託された至高の存在である。

31 神が造つたすべての物を見られたといふ、それは、は

なはだ良かつた

神は六日間と記された区分の中で創造の業を完成された。今までの創造の過程では良しとされたことがある。創造の完成に至つて、非常に良かつたと神は満足をなさつた。人間が自由を誤つて用い、神に反逆するまでは、現在では想像できない平和と秩序が地に満ちていた。

参考図書 G.Ch.Aalders (Bible Student's Commentary) 他

3日 札拝メッセージ例

聖書	創世記1・1～31
タイトル	全てを造られた神様
暗唱聖句	はじめに神は天と地とを創造された。

創世記1・1

導入

(和田治)

今日からよいよ、新しい学年での教会学校がスタートです。進級おめでとう！ ちょっと心配もあるかな？ 大丈夫！ イエス様がいつもいっしょにいてくださって、守ってくださいますよ。

さあ、今日のお話は新しい始まりにピッタリ！ この世界がどんなふうに始まつたかを見ましょう。

はじめに神は…

皆さん何かを作るのは好きですか？ 紙粘土で花や動物を作つたり、折り紙で飛行機を作つたり。お料理を作るのが得意つていう人もいるかもね。何かを作るとき、必ず「材料」が必要ですよね。何もないのに「いちにさん！」つて何かを作り出す、なんてことは、誰にもできません。ところが、「はじめに神は天と地とを創造された」つまり、神様は何もないとこのにこの世界を造られたのです。こ

れは、私たち人間が何かを材料にしてものを作ることとは全く違います。神様にしかできないことです、何もないところに何かを生み出すつていうことは！ 私たちがこうして生きていらるのは、はじめに神様がこの世界を造つてくださったからです。では、どうやつて？

天と地を創造された

「光よ、輝け」と神様が命じました。すると光がさつと輝いたのです。それを見て、神様はとても満足なさり、光とやまとを区別しました。昼と夜ができる、一日目は終わりました。次に、「水は上下に分かれ、空と海になれ」と、神様が命じました。そのとおり水が二つに分かれ、空ができました。二日目も終わりました。「空の下の水は集まって海となり、かわいた地が現われよ」。こう神様が命じると、そのとおりになり、「陸と海」ができました。陸に草木が生えるようお命じになると、そのとおりになり、神様は心から満足なさいました。こうして三日目が終わりました。

「空に光が輝き、地を照らしなさい。その光で、昼と夜、季節の変化、一日や一年の区切りをつけるのです」。そのとおりになりました。太陽と月ができるのです。他にも、無数の星が造られました。四日目は終わりです。神様はまた命じました。「海は魚やその他の生き物であふれ、空は

3日 札押メッセージ例

あらゆる種類の鳥でいっぱいになれ」。そのとおりになりました。五日目が終わりました。次に神様は命じました。「地は、家畜や獣など、あらゆる種類の動物を生み出せ」。そのとおりになりました。そして最後に、神様はこうおっしゃつたのです。「さあ、人間を造ろう。地と空と海のある生き物を支配させるために……」。人間が、天地を造られた神様に似た者として造られたのです。このように、六日間ですべてを造られた神様は、それらを「らん」になつて大変満足されました。すべてが「かんべき!」、本当に素晴らしいかったです！

気付きましたか？ 神様は、そのすべてを「お言葉」によつて造られたつてこと……。ものすごいですよね、神様のお言葉の力つて！ この神様のお言葉である「聖書」に従うなら、私たちの歩みも本当に素晴らしいものになるのは、当然ですよね！

キルヒヤーの天球儀

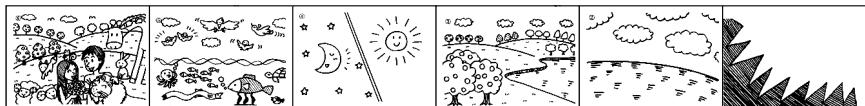
今から三百年以上も前、ドイツにアタナシウス・キルヒヤーというクリスチヤンの科学者がいました。ところがキルヒヤーの友だちに、「神様なんかいない。すべてはたまたま、偶然にできたのだ」と信じている科学者がいたのです。「君は科学者なのに、神が天と地を創造したと信じて

いるなんて変だよ！」そう言う彼に、キルヒヤーは何かして本当の神様のことを伝えたいと思いました。それは、星の模型を作つて、ハンドルを回すと実際に星が動いているように動くような仕組みのものでした。完成してからその友だちに見せたのです。「素晴らしいじゃないか。いつたい誰が作つたんだ?」「うん、偶然にできたのさ」。「バカなことを言うなよ。こんな見事な天球儀が偶然にできるわけがないだろ！」そう言う彼にキルヒヤーはすかさず言いました。「実はこれは僕が時間をかけて作ったものさ。でも君は、こんな模型とは比べ物にならない宇宙のすべてが、偶然にできただって言つていいんじゃないのか。それっておかしくないかい？ 聖書は、神様がすべてを造られた、と言つていいよ」。このことがきっかけで、その友だちは聖書を学び、やがて天地創造の神様を信じたのです！

まとめ

世界のすべてを造られた神様が、あなたをも造られ、愛し、すべてのことに関わつていてくださいます。だから安心して神様についていこう！

♪はじめに神が♪（ふくいんこどもさんびか2・6）



聖書 創世記 テーマ 神のかたちに造られた人間

序論

神は人間を造り、天地創造の御業の最後を飾られました。人間はどのような存在であるのか、そして何をするときには神に祝福された歩みができるのかが、創造の言葉の中に初めてから記されています。

一、神のかたち

神は人を〈神のかたち〉に創造されました。〈神のかたち〉とは、神が人間と同じような外観を持つていて、ことではありません。むしろ人間が、神に似た存在として、靈をもち、善悪を意識し、互いに交わりを求めることがあります。他の生物とは異なるものに造られました。

人間だけが「靈」をもつしるしは、永遠や死を意識することです。親しい者の死を悼み、自らの終わりを思い、また永遠者を慕い求めます。これは、人間がもともと、神と共にあるべきものとして、永遠の命を持つているはずだからです。

人はまた、目に見える世界だけの生き物ではありません

(金井信)

から、オリジナルな創造性を持ちます。芸術性や創造力は神からの賜物です。

そして、互いに交わりを持つことによって成長し、満たされていきます。

最近はロボットの実用化が進んでいます。用途に応じてさまざまな種類がありますが、人間と向き合うロボットは、人の姿に似せて造られます。工場の中で機械的に造られているものでも、時に愛称で呼ばれるそうです。

神は人間をロボットよりもっと豊かに、感情を持ち、意思を持つ存在として造られました。神の呼びかけに自分から答え、交わりをもつためです。

神との交わりと共に、人との交わりが必要です。創造の言葉においては、「われわれのかたちに、われわれにかたどつて」とあるように、「互いの交わり」において神に似ることが強く示されています。

親子の関係は、神からの命の流れの中で、だれもが生まれたときから持つ間柄です。友情は、惹かれあう部分もあります。選択的な部分もあります。

もつとも神に似ることを学ばなければならぬのは、夫婦の関係です。

二、男と女とに創造された

「男と女とに創造された」。これは、男と女が、どちらが後先ではなく、共に神に造られたものであり、区別して造られたことを教えます。

生まれた時から身近に父親母親の存在があり、それぞれの役割を感じていきます。また成長すると性別の違いを意識し始めます。男女の違いを差別的に見るのではなく、それぞれに使命があることを神からのものとして受け止めるときには、神の導きの中での役割分担があり、助け合いがあります。

神が『男』と『女』を造られたのではなく、『男と女に』造られたとあります。固定化した「男」と「女」ではなく、一人一人の男性性と女性性、あるいは個々のパートナーの間での役割分担は、それぞれの違いがあり、幅の広さが初めから許容されていることを考えさせられる言葉です。

三、生めよ、ふえよ、地を従わせよ

他の生物は、その特徴によって住む地域が定まっていますが、人間だけは知恵を用いて周りの環境を自ら整えて世界中に広がりました。神がそのように造り、命じられたか

らです。

最近は、人類がどこまで増えるのか、飢餓や貧困の問題から危惧されています。しかし、偏らず無駄にせずに分配すれば、食料は十分にあるという試算もあります。また医療の発達と教育の普及によって、人口増加が落ち着くとの見方もあります。性急に聖書の言葉を批判せずに、人間の使命の基礎にある神の愛を学ぶほうが良いでしよう。

神の与えた知恵は、人が互いに争うためではなく、それを地を治めるため、すべての生き物を治めるためです。猛獣や巨大な生物さえも人は扱うことができますが、身勝手にではなく、共に神に造られたものとして愛をもたなければ、正しく治めることができません。自然界にも、人間社会にも、実際に出て行つて治める務めに向かっていくときに、愛がなければ残る実を結ぶことができないことを悟ります。

結論

神に向き合い、導かれながら生きるのが人間本来の生き方です。そして一人一人に与えられた役割を果たすために、神は使命を与え、豊かな結実を生むために、愛を与えておられます。

10日 研究資料

研究資料

(井上義)

先週は創世記1章全体から天地創造のすべてを見たが、今週は人間の創造にしぶって、詳しく取り上げる。人間は古来、「自分は何者であるか」という問いを持ち続けてきた。このことはまた、人間が神によって造られた特別な存在であることを表している。人間とは何かという問いの答えには、歴史、立場を通して、様々な考え方がある。デカルトやカントは人間の理性を強調した。ヘーゲルは人間の意志を重要視した。シュライエルマッハーは、人間は情操、感覚の存在であるとした。それぞれに真理を言い当てるが、間違ではないが、部分的な各論である。聖書を基盤に持ち、神を中心にして、総体的な人間理解を持つことができる。創世記の人間の創造の記事は、人間とは何かを知る大きな手がかりである。人間本来の目的、使命を知ることができる。

テキスト

26 われわれのかたちに、われわれにかたどつて人をつくり かたち（ヘツエレム） 「神のかたち」につくられたことこそが、人間性の根底にある。先週も記したように、

「かたどる」とは外見的な形の引き写しではない。宗教改革者のルターやカルヴァンは、神のかたちとは自由意志であると言った。人間は自由な意志によってものごとを決断することができる。これが神のかたちであると言っている。ある神学者は、神のかたちとは人間が神と関係を持つことができる。他の神学者は、神のかたちとは靈なる神が語りかけたときに靈の目が開かれている人が応えることができる。つまり人間の神との応答性に神のかたちがある、と言う。前者の神学者も後者の神学者も、神との人格的な交わりを持つことに神のかたちがあるということを語っている。 **治めさせよう（ヘラーダー）** 治めるためには、知性に基づいて、組織、計画、評価する能力が問われる。善い真実な感情に基づいて、治めるものの幸いを願い、それを阻むものを退けることである。人間は、神の御心を地上に具現していくことに力を尽くさなければならぬ。人間に与えられた権威を振りかざして、治めるものを従属させることではない。人間が自然や生物に対しても態度、姿勢は、このような基盤に基づかなければならぬ。自然の破壊、生物種の絶滅などは神の御心に明らかに反

する。人間は思い上がらず、謙虚に神の御心を果たすことが、始めからの使命とされている。

27 男と女とに創造された

他のある神学者は、男と女に造られたことに神のかたちがあると言っている。伴侶は互いに、愛の交わり、命のやりとり、犠牲を負いあつていて、関わりを持つものである。伴侶の間で真実な交わりを形作るようなど、神は人間に性別を与えていている。三位一体の神は、父、子、聖霊の間に愛の交わりを持たれている。人間もまた選ばれた男女の間にある交わりによって、神のかたちを持ちうるものとされている。

28 神は彼らを祝福して言われた 祝福（ハバラク）

先週も記したように、神の祝福は特に旧約においては、繁榮と結びついている。動物においては子孫が多く与えられることである。被造物の冠である人間にこそ、神は祝福を与えた。動物は神の祝福に対しても意的には応えられない。しかし、人間は神の祝福を認め、感謝し、応答することができる。選ばれた伴侶との結婚という正しい方法を通して、人間は子孫に祝福を伝えていくものとなる。アブラハムの場合、仕え女ハガルとの間に生まれたイシマエルは、祝福を受け継げなかつた。妻サラとの間に生まれ

たイサクこそ、祝福の約束の成就となつたのである。神の祝福のもう一つの側面は、他の被造物を従わせ、治めるごとであつた。それは神によって委託された権威であり、人間もまた神に従うものである。

29 あなたがたに与える

神が人間に与えられた食物は、穀物と木の実であつた。続く30節には、動物や鳥類の食べ物は青草とされたとある。人間が、植物以外の生き物を食べても良いとされるのは、ノアの洪水後になる（9・3）。創造の時点では、動物たちは互いに挑みあう弱肉強食の関係はない。現在の生物界の秩序とは異なり、それぞれの食習慣も違つていたようである。そこには、穏やかで安らかな平和があつた。

31 神が造つたすべての物を見られたところ、それは、はなはだ良かつた

神は六日間と記された区分の中で創造の業を完成された。今までの創造の過程では「良しとされた」とある。しかし、創造の完成に至つては「はなはだ良かつた」と、神は最高の満足をなさつたのである。

参考図書 先週の他、小林和夫『栄光の富I』（日本ホーリネス教団）

10日 札拝メッセージ例

聖書	創世記1・26～31
タイトル	特別に造られたんだ、私たちは！
暗唱聖句	神は自分のかたちに人を創造された。

創世記1・27

導入

皆さん、先週のみ言葉を覚えていましたよね？ いつしょに言つてみましよう。そう、「はじめに神は天と地とを創造された」。一番最初にできたのは？ そうです、「光あれ」と命じられて、光ができました。では、最後に造られたのは？ そうです、人間でしたよね。今日は、私たち人間がどうして造られたのか、聖書から学びたいと思います。

神のかたちに創造された

「神は自分のかたちに人を創造された」。え？ ジやあ神様の髪の毛は何色？ 目は二つ、鼻が一つ、口が一つのこと？ 実は、神様の「かたち」って、外の顔かたちが人間と同じつことじゃないんです。人間の「なまこみ」が、神様に似せて造られたってことなんです。例えば、私たちは、人に親切にすることや決められた正しいルールを

(和田治)

守ることが「善いこと」だつてわかりますよね。人に意地悪をしたり、うそをついたりすることが悪いことだということもわかります。それは人間が、きよく正しい愛の神様に似せて造られたからなのです。また、みんなは今朝、「ふん！ 教会学校になんて絶対に行くもんか！」って決めていたのに、「うううあれれー、からだがひとりでに動いてしまうー」。勝手に足が動いてここに来ちゃつたつて人はいませんよね。人間は、こうしたい、ああしたくない、と自由に自分で考え、自分でやりたいことを選ぶことができるようにならなければなりません。ある人は「うちの犬には何が良いことがわかるんだよー」と言います。でも、その犬は何かをするとき、「かわいい」とか「かわいい」とか「かわいい」とかをすると叱られる、何かをするとき、「ほめられる」とか「ほめられる」とかをされるだけです。良いことと悪いことがわかっているのではありません。イルカさんなど、どんなに賢い動物でも、例えば、素敵な音楽を奏でたり、美しい絵を描いたりはできません。イルカさんなど、どんなに賢い動物でも、例えせんよね。そんな方も、神様に似せて造られた人間だけに与えられているんですね。良かつたら人間に造られて！

互いに交わり神様と交わる人間

ところで、皆さんの中で、これまでの一週間、誰とも一言も話さなかつた、たつた一人ぼっちで誰とも関わらずに生きてきたっていう人はいますか？ いないよね…。それ

4月

10日 札拝メッセージ例

は、私たちがお互いに心と心を通わせ、愛し合うこと)でこそ、生きていくように造られているからなのです。神様は私たちを男と女に造られ、みんな一人ひとり違う人間に造られました。互いに交わるよう! でも、どんなに周りの人たちと親しく交わることができても、それだけでは足りないんです。そう、神様との交わりこそが一番大切なんです!

人間だけが、神様を礼拝し、神様に祈り、神様を愛して生きることができます。だって、愛の神様に似せて造られたのですから。神様と共に生きる、交わることができるよう

に造られた、唯一つの生き物、それが私たち人間なのです。そんな人間が神様と交わることなく生きるなら、その人のからだは生きていても、たましいは死んでいるのです。毎週神様を礼拝し、毎日神様に祈り、いつも神様と交わってこそ、本当に祝福された毎日を歩めるのですね、神様と共に!

世界を治めるべき人間

神様は人間を愛しておつしやいました。「地上に増え広がり、大地を支配せよ。おまえたちは、魚と鳥とすべての動物の主人なのだ。全地に生える種のある植物はみなおまえたちのものだ。実のなる木もおまえたちに与えるか

ら、好きなように食べるがいい」。神様が愛しておられる世界を、愛をもつて治める…これは人間に与えられた大切なお仕事ですね! でも、もし愛することなく、自分たちの「欲」のために自然やほかの人々を思ひのままにしようとしたらどうなるでしょう? 実は、大変残念なことです。が、世界中のあちらこちで、美しい自然がめちゃめちゃにこわされたり、人間同士が殺し合う戦争があるのは、人間が愛を忘れ、神様に背いて生きているからなんです。

まとめ

私たち人間が、神様を愛し、神様が造られた自然や人々を愛し、神様と共に生きることが、どれほど大切で素晴らしいか、わかりましたね。そのために、新しい学年では、これまで以上に聖書を読んでみませんか? 聖書によって神様の御心を知り、神様に従いましょう! 「神様、あなたに似せて造られた私たちが、もつともっとあなたと親しくなつて、あなたに喜ばれる歩みができるよう、いつも共にいて守つてください!」

♪きみはとくべつ♪(ふくいんこどもさんびか2・9)



聖書ヨハネ19・28～30
テーマ 十字架による救いの完成

序論

主イエスは、十字架にかかり死なましたが、そのとき、大声で「成し遂げられた」（共同訳）と叫ばれました。これは、罪人の救いのみわざを十字架の贖いによってついに完成したことを宣言されたのです。私たちは、このイエスの十字架によって完成された贖いのゆえに信頼して救われることができるのです。では、この完成された救いとはどのような救いであったのでしょうか。

一、完成された救い（30）

〈すべてが終わった〉（口語訳）は、また、「事畢（おわ）りぬ」（文語訳）、「完了した」（新改訳）、「成し遂げられた」（共同訳）と訳されています。これは、ただ終わるのではなく、わざをきちんとなし終えて終わることで、元の言葉「[キ]テロス」は、目的、ゴール、目標を意味し、やるべきことをきちつと成し遂げて終わったということです。主イエスは、十字架の上でこのような意識をもつて救いの完成を宣言し、息を引き取られました。

（高橋頼）

私たちの救いは、主イエスの十字架で完成された救いのみわざに全く信頼することにより始まりました。そして、最後まで、これに信頼し続けることです。それ以外では全くありません。キリストが十字架で成し遂げられた救いに付け加えるべきものは何もありません。十字架でなされたキリストの救いを土台にして、私たちの努力や頑張りで救いを完成するのではないのです。

万が一罪を犯したときも、クリスチヤンはそれで終わりではありません。直ちに罪を認め、告白し、その罪を捨てることです。そうするなら、罪は赦され、そのとがめは取り除かれます。しかし、罪が赦されているにもかかわらず、いつまでも罪責感を抱き続けて苦しんでいる場合があります。すでにとがめは取りきられ、そのトゲは抜かれているのです。抜かれた痕はしばらく痛みが残るかもしれませんが、十字架において完成してくださったキリストの全き贖いに信頼して、信仰によつて歩むことです。

「信仰の導き手であり、またその完成者であるイエスを仰ぎ見つつ、走ろうではないか」。（ヘブル12・2）

二、完全な救い（ヘブル9・27～28）

完成された救いは、完全な救いをもたらします。

4月

17日 聖書講解

人間の罪は、贖われ赦されることなしには、解決がありません。しかも、その贖いは完全でなければなりません。キリストは神であられたのに、人となってこの世に来てくださり、罪のないきよい生涯を全うされました。そして、その身をもつて罪ある人間の身代わりとして十字架にかかり、その贖いを完成してくださいました。キリストの贖いは罪人を完全に救う、力ある贖いです。

キリストは十字架の死に続いて、復活されました。そして、死からの救いを成し遂げられました。人は死んで終わではなく、肉体は罪のゆえに朽ちても、救われた魂は栄光の体を着せられ、甦ることができるのです。

キリストは私たちの義となつてくださいました。「わたしたちは、キリストの血によって今は義とされているのだから、なおさら、彼によつて神の怒りから救われるであろう」（ローマ5・9）。

キリストの贖いは私たちの罪を完全に贖い、死から救い、神の怒りからも救い出してくださる完全な救いです。

三、永遠の救い（ヘブル9・12）

完成された救いは、完全な救いをもたらし、また、永遠の救いを約束します。

旧約時代においては、人間の罪の贖いのために規定によ

つていけにえがきさげられ、大祭司による贖いの儀式が繰り返されました（レビ記1～7章）。しかし、これらの贖いはたびたび繰り返されねばならず、しかもそれらのさげ物やいけにえは、人間の良心を完全にする（きよめる）ことはできませんでした。

しかし、もはや繰り返されることのないキリストの血によるただ一度の永遠の贖いが、十字架において成し遂げられたのです。

「ご自身の血によって、一度だけ聖所にはいられ、それによつて永遠のあがないを全うされたのである」。

（ヘブル9・12）

「彼は一つのささげ物によって、きよめられた者たちを永遠に全うされたのである」。

（ヘブル10・14）

結論

キリストが十字架で成し遂げられた救い、キリストが十字架の上で大声をあげて宣言された救いは、何と偉大で完全な救いであることでしょうか。私たちの救いは、その活動は、主の完成されたみわざを出発点とし、そして、この救いの良いみわざは必ず完成されていくのです（ピリピ1・6）。この完成された救いのみわざに信頼し、完全で永遠の救いを獲得ましょう。

17日 研究資料

研究資料

(中島啓)

テキスト

28 万事が終ったことを知つて 「終つた」は[ギ]テレオーの完了形テテレスタイ(30節の「終つた」も同じ)で、一般的用法では「(自分や他人の意志を遂行する)」、「(義務を果たす)」、「(債務を)完済する」などの意で用いられる。ここでは、父なる神が御子に託されたすべてのこと、聖書に預言された一切のことが「達成された」、「完成した」という勝利に満ちた意味に訳すべき言葉。わたしは、かわくユダヤ地方の強い日射しは、十字架上の受刑者から急激に水分を奪つた。イエスは「わたしが与える水を飲む者は、いつまでも、かわくことがない」(4・14)と宣言されたが、その水を与えるためには、ご自身が極限の渴きを経験せねばならなかつたのである。なお、この記述には、イエスの肉体性、人性を否定する初期の異端である仮現論を退ける意図も含まれているかもしれない。聖書が全うされるためこれは、「彼らはわたしの食物に毒を入れ、わたしのかわいた時に酔を飲ませました」(詩篇69・21)と、おそらくは「わたしの力は陶器の破片のようにかわき、わたしの舌は****

あごにつく」(詩篇22・15)を指すのであろう。渴きを訴えるイエスの言葉は、聖書の成就だけを目的とする「じつけではなく、その状況下で極めて自然に発せられたのである。

29 酔いぶどう酒 ルカ23・36ではあざけりの意味でこれがさし出されている。ローマ兵はのどが渴いたときに、ワイン酢を水で薄めたポスカという飲料(ハーブで風味づけすることもあった)を飲んだと言われており、この酔いぶどう酒はそのポスカかもしれない。ちなみにマルコ15・23の「没薬をませたぶどう酒」は、受刑者の感覚を鈍化させ、苦痛を緩和させるためのもので、これとはまったくの別物である(イエスはそれを拒まれた)。マルコ15・36では、ひとりの人が、エリヤが登場するかを見届けるために、(おそらく気付けのような目的で)イエスに酔いぶどう酒を飲ませようとしたと記されている。このことから、この酔いぶどう酒は、苦痛を緩和させるどころか、かえつて苦痛をはつきり意識させるという悪意をもつてさし出されたのかもしれない(ヒソップの効果については後述を参照)。**ヒソップの茎** 聖書に登場するヒソップはシソ科ハナハツカ属のマジョラム、あるいはそれに類する植物と言われている。その葉にはメントールのような効果があり、兵士たちはボ

スカのリフレッシュを増すためにヒソップで風味づけをしたのかもしない。その茎の長さは数十cmから長くても1mで、地上から十字架上に届かせるには十分な長さとは言えない。マルコは海綿を葦^{あし}の棒につけたと記してゐるので、その棒の先にヒソップをついたのかもしない。いずれにせよ、より重要なことは、ヒソップが象徴的に指示示すものである。すなわち旧約においてヒソップは、過ぎ越し（出エジプト12・21～22）や、清めの儀式（民数記19・6、18、詩篇51・7）の際に用いられたが、それらはイエスの十字架を予表するものであった。イエスの受難こそが眞の過ぎ越しであり、イエスの血潮こそが、眞のきよめを実現するのである。ちなみに「ヒソップ」（ギリコッソボ）ではなく「投槍」（ギリコッソン）だとする説もある（New English Bibleなど）。しかし投槍はローマの正規軍団のみが装備したところ記録があり、また当時ユダヤに駐留していた部隊は正規軍団ではなかつた（いかん）、この説は退けられるだろ。

30 すべてが終つた 28節と同じギテテレスタイルであり、同様に解釈するのがふさわしい。すなわち、イエスの受難を通してすべての預言は成就され、父なる神が御子を遣わ

した目的は達成されたという勝利宣言である。その御子の派遣の目的とは「いの世が救われ」、「御子を信じる者が…永遠の命を得る」ことであった（ヨハネ3・14～17）。それが果たされた今、救いは完成したのである。**首をたれ**て「首をたれる」は「人の子にはましいすゑ（直訳は「首をたれる」）所がない」（マタイ18・20）でも用いられており、眠りに関して用いられることが多い表現。**息をひきとられた** 直訳は「息（靈の意もあるギブネウマ）を（父に）委ねられた」で、ルカが記録する「父よ、わたしの靈を御手にゆだねます」（ルカ23・46）といふイエスの言葉と符合する。同じ表現を用いる詩篇31・5は、敬虔なユダヤ人がタベの祈りの際によく朗誦した箇所である。キリストは最後の息を引き取る直前、まさに人生の夕刻に、眠りにつく前のような平安な祈りを神にやさげたのである。

参考図書

注解書 G. R. Beasley-Murray (W

ord), F. F. Bruce (Eerdmans), B. Lindars (New Century Bible). やの他

The IVP Bible Background Commentary: NT, Theological Dictionary of the New Testament.

17日 札拝メッセージ例

聖書 ヨハネ19・28～30
タイトル 救うためです、主の十字架
暗唱聖句 するとイエスは：「すべてが終った」と言われ、首をたれて息をひきとられた。
目標 キリストが十字架上で成し遂げられた
 みわざに信頼し、救いを得る。

導入

(和田治)

今日は、「棕櫚の日」です。ろばの子に乗つてエルサレムに来られたイエス様を、人々が大喜びで、しゅるの葉を振つて迎えた日ですね。そして、来週は？ そう、イエス様がよみがえられたイースター！ ということは、イエス様が十字架にかかるたのが、今週の金曜日なのです。今週は「受難週」、イエス様が私たちのために味わつてくれたさつた苦しみを、特別に心に留める週なんですね。

十字架の上のイエス様

「ハア～ツ、ハア～ツ…」とてつもなく苦しそうなイエス様の息が聞こえてきそうです。背中には鞭で打たれたひどい傷、頭には茨の冠。手と足に太い釘が打たれ、十字架の上で苦しみ続けておられるイエス様。朝の九時に十字

架につけられてから、六時間近く経っています。ユダヤ地方の日射しはとても強いのです。イエス様は、どんなに口が渴いたことでしょう。「わたしは、かわぐ」とおつしやつた、その一言に、イエス様のお苦しみがぎゅうくつてしまっているようです…。

そこに、酔いぶどう酒がいっぱい入れてある器がおいてありました。人々は、このぶどう酒を綿に含ませたものをヒソップの茎に結びつけて、イエス様の口もとにさし出しました。苦しんでいるイエス様をあざけるように、渴きつたイエス様ののどを潤すため？ いいえ。ヒソップには意識をはつきりさせる働きがありました。もつと苦しくなるようにならぬために差し出されたのです。何ということでしょう！

すべてが終わった

イエス様はそのぶどう酒を少しお飲みになり、大声で「すべてが終わつた」と叫ばれ、首をたれて息をひきとられたのです。「もうおしまいだ」という意味？ いいえ！ 「やるべきことをきちっと成し遂げて完成した」という意味なんですよ！ では、イエス様は何を成し遂げてくださつたのでしょうか。

イエス様は神様なのに、私たちと同じ人間となつてこの世に来てくださいました。そして、たつた一度も、ほん

4月

17日 札拝メッセージ例

の小さな罪でさえも犯すことなく、きよい完全な生涯を送られたのです。ですから、死刑の中でも一番むごい十字架で罰を受けるなんて、全くふさわしくないことなのです。では、私たちはどうでしようか？「別に罪なんて犯してないよ」って言えるでしようか。罪とは、きよい神様が喜ばれないすべてのことです。

はるお君はハイパー・ヨーヨーが大得意！今日も「シユルルーツ」と次々と技を決めています。と、その時、「あいた！」妹のゆう子ちゃんが叫びました。なんと、ヨーヨーが、はるお君の近くでお絵かきをしていたゆう子ちゃんの頭に「ゴチン」ってあたったんです！「ギャアー」と泣き出すゆう子ちゃん…。「はるちゃん、何してるの！」お母さんの声にはるお君が答えました。「ゆう子がこんどころでお絵かきしてるから悪いんだよ！」と、これは、「人のせいにする」っていう罪ですね。どんな小さな罪でも、きよい神様はそれをうやむやにしたり、そのまま赦すことがあります。神様はそのひとり子イエス様をこの世に遣わし、罪深い私たちの身代わりとして、十字架につけてくださいました。私たちが受けるべき罰を、身代わりにイエス様に負わせるために！

付け足しはいらぬ！

イエス様が十字架で流してくださった血は、私たちをすべての罪からきよくしてくださいます。救われるため、何か良いことをしたり、お金を献げたりする必要は、全くありません。「すべてが終わつた」からです。イエス様は私たちを罪から救うために、十字架の上で「何もかも成し遂げ」てくださったのです。ですから、そのイエス様の十字架が「私の罪のため」だと心から信じ、罪を悔い改めましょう。「神様、私の罪をお赦しください。イエス様を信じます。心の扉を開いて、救い主イエス様を受け入れます。イエス様が私に代わつて十字架で死んでください、死を打ち破つてよみがえつてください、心から感謝します」と。その時、すべての罪が赦され、救われるのですね。

結び

すでにイエス様を信じて救われた人は、そのことをもう一度心から感謝しましよう！そして、これまで罪をうやむやにしてきた人は、イエス様の十字架の苦しみが、あなたのためだつたことを受け止めて、心から罪を悔い改め、信じて救つていただきましょう！

♪赦すためです♪（友よ歌おう 42）



聖書 ヨハネ20・11～18

テーマ 復活の主による喜び①

序論

(高橋頼)

十字架に愛するお方の死を確認し、そのなきがらがヨセフの墓に納められるのを見届けたマグダラのマリヤは、安息日が明ける日の朝、まだ暗いうちから墓に急ぐと、墓は空っぽでした。空虚な墓の外で泣いているマリヤに、復活の主イエスが現れ、「マリヤよ」と呼びかけられました。マリヤは振り返り、主を認めるに、悲しみに押しつぶされていた心に喜びが爆発し、「ラボニ」と叫んで主にすがりつこうとしました。

復活の記事は、『喜び』に溢れています。キリストの復活は、悲しみを喜びに、絶望を希望へと一気に転換する出来事です。

一、悲しみの涙と悲嘆 (20・11～15)

復活の朝 墓に急いでいたマグダラのマリヤは、イエスのなきがらを求めていました。なんとしてもイエスのお体に触れ、自らの手で心ゆくばかり葬りの備えをしたかったのです。愛する方を失った痛手を癒すグリーフ（悲しみを受容する心の過程）です。どうすることもできないイエス

の十字架の死と葬りの事実の前に、せめてお別れのための十分な時が欲しいと願いました。

もし、復活がなければ、愛する者の死の現実を前にして、私たちはありつたけの涙を流し、その悲しみを心ゆくばかり味わい、せめてもの慰めを得ようとする術を持つほかありません。マリヤは、この時、生きておられる方を空虚な墓に求めていたのです。主は、甦られました。しかし、悲しみの涙に曇ったマリヤの目には、甦って生きておられる主を認めることができませんでした。

あまりにもひどい悲しみや苦しみに会い、試練の中に長く捨て置かれているように感じられる時、私たちもまた、甦つて共におられる主を、生きておられる方と認めることが難しいかもしれません。しかし、涙をぬぐい振り返ったとき、主が愛する者に親しく語りかけられたお言葉を聴きましよう。そして、今も生きて共におられる主を仰ぎ見ることができますように。

二、悲しみを喜びに変えるキリストの復活 (20・16～17)

マリヤは、「マリヤよ」と、主イエスの呼びかけに振り向いて、初めてそこに甦つて生きておられる主を見出し、主にすがりつこうとしました。マリヤは、甦つて生きてお

4月

24日

聖書講解

られる主を拝したことにより、一度に悲しみが喜びに変えられてしまいました。これまでの主イエスとマリヤの間にあった親しい交わりが、復活の主の呼びかけに応答することを可能にさせ、復活の主との新たな親しい人格的交わりに導いたのです。

キリストの復活の事実に目が開かれ、主が生きておられることが分かるなら、人の心と生き方が変わり、すべての事情と状況が一変します。失望と落胆の弟子たちを変えたのは、彼らが復活の主にお会いしたことがきっかけでした。主の復活は彼らに起死回生の転機をもたらしました。さらにペニテコステの体験は、内に共に生きてくださるお方として、甦りの主を日常生活の中でより鮮明にさせました。何よりも、主が生きておられることがハッキリわかるようと喜びが溢れます。命が溢れ、信仰の躍動を感じるようになります。生きる勇気と力が湧いてきます。

キリストは生きておられる

わがうちにおられる

すべては御手のうちにあり
今日も励もう主に守られ

(新聖歌
257)

真の喜び、いのちの喜びを宿した時、それを隠して押さえおくことはむしろ苦痛です。私たちもまたキリストの復活を、喜びに溢れてその恵みと共に大胆に宣べ伝える者としていただきましょう。

繰り返し歌い、生活のあらゆる場面で歌い、歌い続けて

いたい贊美です。

三、喜びの源泉であるキリストの復活を伝える

(20・17～18)

主が生きておられることを知ったマリヤは、今度は、抑えがたい喜びと興奮の中にかけだし、仲間に主の復活の事実を伝えに行きました。同時にマリヤにはまだ、どこかに恐れがあつたかもしれません。よみがえられた主にお会いしたことが現実のように思われず、まだ何か夢を見ているように感じているところがあつたのかもしれません。しかし、「彼らに伝えなさい」と言われた主の命令に従い、〈弟子たちのところに行って、自分が主に会つたこと、またイエスがこれこれのこと自分に仰せになつたことを、報告した〉のです。

甦られたキリストを見ることが許され、その恵みに与つた人々が、「キリストは甦られた」と、キリストの復活を宣べ伝えるところから、福音は広がって行きました。

結論

24日 研究資料

研究資料

(中島啓)

テキスト

- 11 マリヤは墓の外に立つて泣いていた その涙は、イエスの死そのものの悲しみ（11・31参照）に加え、その遺体が無くなつた（「奪われた」と思つていた）ことによる悲しみのゆえであつた。時代や地域を問わないことだが、ユダヤの文化でも遺体に対する無法（蹂躪など）は御法度であり（サムエル上31章参照）、通常、墓荒らしでさえ遺体そのものには手をつけなかつたと言われる。
- 12 白い衣を着たふたりの御使 白い衣は天的な存在であることの象徴であると共に、服喪の色である黒との好対照を示し、復活を象徴している。
- 13 だれかが、わたしの主を取り去りました… だが、天使を見てもマリヤの悲しみは消えなかつた。遺体が盗まれたという思い込みから、イエスがよみがえつたなどといふ発想は全くなかつた。
- 14 ふり向くと、そこにはイエスが立つておられるのを見た。しかし、それがイエスであることに気がつかなかつた 工マオ途上の弟子たちは「愚かで心のにぶい」（ルカ24・25）

ため、イエスだとなかなか気づかなかつた。マリヤの場合も涙で目が曇つていたことだけが理由ではないだろう。

園の番人だと思つて 墓が園の中にあつた（19・41）

ことが勘違いの理由であろう。しかし園の番人であつても墓とは無関係であり、墓を開けて遺体を移すなどあり得ない。けれどもマリヤは墓にもする思いで、もしあなたがあのかたを移したのでしたら… と言つたのであろう。

16 マリヤよ イエスだと気づく瞬間は人格的な呼びかけによつてもたらされた。15節では一般的な「女よ」という呼びかけであつたが、今ここで、イエスは「良き羊飼い」としてご自身の羊を名前で呼ばれたのである（10・3）。マリヤはふり返つて「羊はその（＝羊飼いの）声を知つている」（10・4）。ヨハネが強調するのは、復活の主との個人的、人格的な関係性である。マリヤはすでに一度ふり向いていたはずである（14）。その時はそれがイエスだと気づかずに、おそらく視線を戻していた。だが今、自分の名を呼ぶ懐かしい声で我に返り、再びふり返つたのである。ラボニー ヘブル語とあるが実際はアラム語（両者は親戚のような関係）で「先生」の意。一般的な「ラビ」よりも大きな尊敬を込めた呼び方だという説と、対照的に、

4月

24日 研究資料

より親しみを込めた呼び方だという説もある。いずれにせよ重要なことは、マリヤがこれまでにもいつも、イエスに相似のよう呼びかけていたであろうと言うことである。

17 わたしはわざではない これはイエスがトマスに触つてみよと促される」と(27)と矛盾するようにも思えるが、そうではない。(27)ハプトーは「触る」の他に「しがみつく、くつつく」の意もあり、新改訳・新共同訳は「すがりついてはいけません」などと訳しているが、その方がよりふさわしいだろう。マリヤはイエスを「離さなければならぬ」ところ」とある。それは、**わたしは、まだ父のみもとへ上つていな**からである。「上の「上つて」は完了形であり、後の「みもとへ上つて行く」が現在形であることを合わせ、イエスが今、昇天の途上にあることを示す。復活のイエスは地上にとどまり続けるのではなく、やがて(すぐに)天に昇られる。そうすれば今までのようにな肉眼で見、手で触れることはできなくなる。しかしてイエスがかつて言われたように、それは彼らに「益」(16・7)をもたらすのである。**わたしの兄弟たち**なぜ弟子たちがイエスの兄弟であり得るのかが続いて示される。わたしの父またあなたがたの父…わたしの神またあなたがたの

神 父なる神との関係において、イエスのそれ(三位一体における永遠の交わり)は、弟子たちのそれとは区別されね。けれどもこの区別は「排斥」ではない。その正反対の「包含」がここにはある。すなわち御子のおかげで弟子たちは、本来ならそうは呼べないお方を「わが父、わが神」と呼ぶことができる者とされたのである。「主は、彼らを兄弟と呼ぶことを恥とされない」(ヘブル2・11)。そこに圧倒的な愛とゆるしがある。ルツ1・16「あなたの民はわたしの民、あなたの神はわたしの神です」を想起するかもしれない。ナオミとルツの間に新しい家族関係が結ばれたように、主が兄弟姉妹と呼んでくださる者同士も、新しく兄弟姉妹とされ、ここに教会という新しい家族が誕生する。ルツ記においては、ナオミの神のもとへ来る」とを選んだのはルツであったのに對し、ここでは救い主の方から私たちの所へ来てくださいり、その生涯と死、復活と昇天という一連の救いのわざを通して、私たちを神の民としてくださいたのである。

参考図書 注解書 Beasley-Murray, Bruce, Lindars. もの他 The IVP Bible Background Commentary: NT.

24日 札拝メッセージ例

聖書	ヨハネ20・11～18
タイトル	復活の主による喜び
暗唱聖句	女よ、なぜ泣いているのか。
目標	悲しみの涙を取り除く、復活のキリストに出会う。

ヨハネ20・15

導入

イースターおめでとうございます。イースターって、とつてもうれしい日です。喜びの日です。だって、私たちのために死んできださったイエス様が、よみがえられた日だからです。でも、そのことを知らなかつた人がいました。

(水野)

でした。白い衣を着た二人の天使が墓の中にいましたが、イエス様はいなかつたのです。誰かがイエス様を盗んでいたのだと思い込み、悲しくて悲しくて泣いてしまいました。イエス様が死んでしまつたことで、絶望していたのに、遺体までなくなつて、もうどうしたらいいかわからなくて泣き続けたのです。すると、天使が「女よ、なぜ泣いているのか」と言いました。マリヤさんは悲しみでいっぱいになりました。「だれかが、私の主を取つていかれたのです」と答えました。ところが、イエス様はすぐそばにおられたのです。そして「女よ、なぜ泣いているのか。だれを探しているのか」と尋ねられました。

復活のキリストに出会つた喜び

イエス様は、十字架にかかつて完全に死なれました。金曜日のうちに十字架から下ろして、その体を布で巻き、たくさんのお香料を入れてお墓に納めました。大きな石がお墓の入口におかれ、誰も入ることができませんでした。
日曜日の朝まだ暗いうちに、マグダラのマリヤさんがお墓に行くと、石が取り除けられてあり、お墓の中は空っぽ

涙で曇つたマリヤさんの目には、よみがえつて生きておられるイエス様が墓の管理人のように思えました。それで、「ここにおられた方を、どこかに移したのでしたら教えてください。私が引き取ります」と訴えました。すると、「マリヤよ」となつかしい声が聞こえてきました。振り返つてみると、イエス様がそこにおられるではありませんか。その時初めて、マリヤさんはよみがえられたイエス様に気が

4月

24日 札撰メッセージ例

づいたのです。「ラボニ（先生）」と今まで親しみを込めて呼んでいたように、またお呼びすることができて、うれしくてすがりつこうとしました。生きておられる主に出会ったマリヤさん的心に、大きな喜びがわきあがつてきました。イエス様は罪と死に打ち勝つて、よみがえられたのです。このイエス様を信じ、今も生きておられるイエス様を心の中にお迎えするとき、私たちの心の中に喜びや希望が溢れ、生きていく勇気と力がみなぎってきます。

復活のキリストを伝える喜び

よみがえられたイエス様に出会ったマリヤさんは、イエス様が生きておられることと、イエス様が伝えるように言われたことを、すぐ弟子たちに伝えに行きました。伝えることによつて、喜びがもつと大きくなりました。

涙が喜びに変わった人

九歳の時に、お母さんが病氣で死んでしまったA子さんは、毎日泣いてばかりいました。学校から帰つてくるといないと分かっていても、部屋や台所、トイレ、おふろや物置まで探しました。心の中はさびしくて、何をしててもむなしく感じていました。ある日、夢でお母さんが、白い着

物を着て、うれしそうに天国に昇つて行くのを見ました。その時、幼稚園の時に聞いたイエス様のことを思い出し、教会へ行けばお母さんに会えるかもしないと思い、教会学校に通い始めました。その頃、A子さんは「人間なんて、死んでしまえばおしまいだ」と、とてもむなしく思っていたのです。ところが、イエス様がA子さんのために、罪を背負つて、十字架にかかる死んでくださり、よみがえつて今も生きていることを聞きました。このイエス様を信じるなら、神の子どもとされ、永遠の命が与えられ、天国に入れてもらえることを知つて、イエス様を救い主と信じました。その時から、泣き虫だったA子さんは心から笑い喜びがあふれ希望が与えられました。やがて、このイエス様の復活の恵みを伝えたいと思い、牧師さんになつたのです。

まとめ

イースターの今日、生きておられるイエス様を心のうちにお迎えし、いつも喜んでイエス様に仕えていきましょう。

♪イエスがいるから♪（喜び歌おう 55）



聖書 ヨハネ20・19～23
テーマ 復活の主による喜び②

序論

女たちが伝えたキリスト復活の知らせは、弟子たちにはたわごとに思えました。しかし、次々にもたらされる「復活の主を見た」という知らせに、弟子たちはうろたえるばかりでした。

主が復活された日の夕方、弟子たちが集まっているところに主は入つて来て〈安かれ〉と言われ、手とわきをお見せになりました。弟子たちは主を見て、喜びに溢れました。

一、キリストの復活について聞く（20・18）

最初の日に、主は復活のお姿を、それぞれの弟子たちに何度も現わしておられます。そしてその知らせは、エルサレムで戸を固く閉めきった家の中にいた弟子たちにもたらされました。彼らは、キリスト復活の知らせを繰り返し聞いたのです。

主イエスの十字架の死を認めていた弟子たちにとって、主のよみがえりの知らせは、にわかには信じがたいものでした。（かつて、主が彼らに語つておられた復活のみ言葉

（高橋頼）

は、彼らの不信仰によつておおわれていたのです。）聞いたことは、彼らに希望を与えるよりも不安と困惑をもたらしました。

しかし、キリストに関する事柄においては、聞くことが大切です。たとえすぐに信じることが出来なくても、困惑したとしても、聞いたことを忘れてしまうことがあつても、聞くこと、聞かせるることは重要です。なぜなら、聞いたことを『聖霊は思い起こさせてくださるからです。思い起こさせ、キリストのみ言葉を当てはめ、教えてくださるからです（ヨハネ14・26）。そして、その時、主を見る喜びに与らせてくださいます（20・20）。

二、キリストの復活に見える（20・19～20）

弟子たちは聞いただけではなく、家の中に入つてこられた復活の主イエスを見て、ようやく信じました。彼らは自分の目で見て、初めて信じることができたのです。さらに、彼らは四十日に渡つて復活のキリストをたびたび見続けました。復活して生きておられる主と親しく交わり、教えを受けました。彼らはまさしく、見て信じた人々となり、もはやキリストの復活を疑うことができない者とされました。昇天の主を天に見送った後、もはや目で見ることが許され

5月

1日 聖書講解

なくなつても、彼らは信仰により、靈の目が開かれた者として、生き生きと主を見続けたのです。彼らは、復活のキリストの目撃証人となりました。

今日、私たちは、復活を見た彼らの証言（み言葉）を聞いて信じる者とされています。主は、「見ないで信する者は、さいわいです」（20・29）と言われましたが、このみ言葉は、見た人の証言を通して後の時代に生きる私たちのために語られています。

さらに、私たちは、み言葉と聖靈による復活体験（信仰体験）によって、復活のキリストに見えることが出来るのです。これにより、私たちは力強い主の証人とされます（使徒1・8）。今、聖靈によって、内にいますキリストを崇めましょう。主と親しく交わる生活を大切にし、聖靈に満たされることを祈り求めましょう。み言葉と聖靈に導かれ、生きておられるキリストに触れ、その現実感に喜びが溢れる者とされましょう。主は、一人一人にふさわしい復活体験を恵みとして備えてくださいます。

三、キリストの復活の証人として派遣される

（20・21～23）

キリストは復活して、生きておられるご自分を弟子たち

に明らかにされ、彼らを復活の証人として新たに遣わされようとされます。そのため、息を吹きかけ、聖靈を受けるよう命じられました。これは後のペントコステにおいて成就しました。聖靈に満たされた弟子たちは、喜びと力に満ちて大胆な宣教を始めました。それは、彼らを待ち受けているあらゆる困難や問題、迫害をも乗り越えさせたのです。私たちもまた、この時代におけるキリスト復活の証人として遣わされています。キリストの復活が確かに事実であることを確認し、聖靈に満たされ、生きておられるキリストを喜びに満ちて宣べ伝えるものとされましょう。

そのため、主は私たちに、「息を吹きかけて：「聖靈を受けよ」と言われます。

結論

私たちのために罪と死を打ち破り、よみがえられた主は生きておられます。不信と挫折の中にうずくまっていた弟子に現れ、彼らを新たに生かし、聖靈に満たして復活の証人として遣わされました。

復活の主も共に働いて、その宣教を祝福してくださいました。今、この生きて働く主を仰ぎましょう（マルコ16・20）。

1日 研究資料

研究資料

テキスト

(中島啓)

19 一週の初めの日の夕方 復活の当日(1)。ユダヤ人をおそれて弟子たちがイエスを十字架につけた宗教指導者たちを恐れるのは当然であった。戸をみなしめていたと、当時のエルサレムの建物にはかんぬきが備わっているのが普通であった。イエスがはいってきて: 復活のイエスは空間の制限を受けずに行動することができたようである。けれども、実体のない靈だけの存在であったのではない。イエスは肉体を持つておられ、触ることができ、魚を食された(ルカ24・39、43)。**安かれ** 直訳は「あなたがたに平安があるように」(ギエイレー・ヒューミン)で、ヘブル語では「シャローム・アレイヘムとなる。これは今日も用いられる「ここにちは」のような日常の挨拶である。しかしある注解者は「イースターの夕方、イエスがそれをおつしやったときほど、その普通の言葉が測り知れない意味の深さを持つたことはなかつた」と言う。最後の晩餐の席上で「わたしの平安をあなたがたに与える」(14・27)と約束されたその平安(ギエイレー)が、今、実

際に与えられるのである。それは、イエスが十字架の上で「すべてが終わつた」と宣言されたときに達成された、神との和解がもたらす平安である。

20 手とわきとを イエスは、傷を見せることによって、自身が間違なく、十字架で死なれたイエス本人であることを弟子たちに示された。それは教会にとつても、極めて重要なことであつた。イエスは、本物の死と本物の復活を通して、全世界の救いを完成してくださつたのであり、十字架にかかるお方と、よみがえられたお方は、完全に同一なのである(この点のぶれから生じた異端が、教会を初期から悩ました)。ちなみにギリシャ語の「手」(ギケイル)は肘から先の部分を指すので、釘打たれた箇所を必ずしも掌と断定する必要はない(掌だと刑の最中に自重で裂ける可能性がある)。**弟子たちは主を見て喜んだ** そのイエスを見、確認した弟子たちは、もはや恐れがなく、喜びで満たされた。「わたしは再びあなたがたと会うであろう。そして、あなたがたの心は喜びに満たされるであろう」(16・22)との約束が今や果たされた。そして「その喜びをあなたがたから取り去る者はいない」(同)のである。

5月

1日 研究資料

21 安かれ イエスは弟子たちを宣教につかわす際に、今一度「安かれ」と言われた。彼らはこの「安かれ」というメッセージ、すなわち和解の福音を携えていくのである。
父がわたしをおつかわしになつたように、わたしもまたあなたがたをつかわす イエスは以前、二階の部屋で弟子たちの派遣を先取りとして祈られたが（17・18）、今、実際の派遣がなされる。御父につかわされた御子は、①受肉され、②贖いのわざをなされた。同様に、今つかわされる弟子たちも、①新しく生まれ、②与えられたわざをなすといふ対応がある。その際に不可欠なのが、次節でなされる「新しい創造」である。なお、ヨハネ福音書では「使徒」（田アポストロス）という語は用いられていないが、動詞「つかわす」（キアポステッロー）によって、彼らが使徒（リックつかわされた者）となつたことをヨハネは示そうとしたのかもしれない。

22 彼らに息を吹きかけて 「息を吹きかける」（キエンヌサオーリー）は、神が人の創造に際し、命の息をその鼻に吹きいれる場面（創世記2・7）で用いられる動詞である。「初めに言があつた」（1・1）と、創世記を意識した言葉で始まるこの福音書の中心テーマの一つは、キリスト

にある新しい創造だと言つてよいだろう。聖靈を受けよ
イエスのバプテスマの際に、ヨハネはイエスのことを「御
靈によつてバプテスマを授けるかた」（1・33）と証しし
た。そのとき、御靈がイエスの上にくだつたところから公
生涯は始まつた。同様に、そのイエスによる聖靈のバプテ
スマによつて、弟子たちは宣教につかわされていくので
ある。

**23 あなたがたがゆるす罪は、だれの罪でもゆるされ、あ
なたがたがゆるさすにおく罪は、そのまま残るであろう**
これは罪のゆるしが恣意的に扱われてよいと言つことでは
決してない。「ゆるされ」、「そのまま残る」は受動態であ
り、そこに神の主権があることが示されている。キリスト
のしもべは、キリストから離れては何らの権威も持たない。
弟子たちの役割は、キリストからつかわされた者として、
人々に和解の福音を告げ知らせることであつて、実際にゆ
るすのは神のわざなのである。それゆえ、ここをあえて意
訳すれば、「誰でも、あなたがたの告げる福音を聞いて信
じるなら、その人の罪はゆるされるが、信じない人の罪は
そのまま残る」とできるのではないだろうか。

参考図書 4月24日分と同じ。

1日 札拝メッセージ例

聖書ヨハネ20・19～23
喜びに満たされて
暗唱聖句弟子たちは主を見て喜んだ。
ヨハネ20・20

導入

先週は、イエス様が死より復活されたイースターをお祝いしました。イースターから一週間が経ちました。皆さんは、今も復活の喜びがあるでしよう。この喜びに満たされて、いつまでも歩みたいと思いませんか。今朝の箇所は、イエス様が復活された日の出来事です。復活の主に出会った弟子たちは、すばらしい恵みを体験しました。

(飯田勝)

イエス様が復活された日の夕方、弟子たちは一箇所に集まっていました。19節に、弟子たちのその時の様子がハツキリと記されています。弟子たちの様子はどうだった。

恐れにつつまれた弟子たち

イエス様が復活された日の夕方、弟子たちは一箇所に集まっていました。19節に、弟子たちのその時の様子がハツキリと記されています。弟子たちの様子はどうだった。

恐れの中に来られるイエス様

恐れに包まれている弟子たちの所に、十字架で死なれたはずのイエス様が来られました。しかも弟子たちの真ん中に立たれたのです。そして「安かれ」と声をかけられました。

たでしようか。仲間と楽しくおしゃべりでもしていたのでしょうか。いいえ、違います。弟子たちは皆、ユダヤ人を恐れてガタガタと震えていたのです。彼らは、誰も部屋に入つて来ないように戸も閉め切つていました。どうしてこんなにユダヤ人を恐れていたのでしょうか。それは、ユダヤ人がイエス様を殺した後、今度は自分たちを殺しにやつて来ると思ったからです。もし、皆さんの命を誰かが狙いに来るとしたらどうでしようか。弟子たちのようにどこかに隠れたりますね。弟子たちは、イエス様が復活された日の夕方、恐れに包まれていたのです。皆さんは、心が恐れでいっぱいになつたことはありますか。「明日、テストがある…どうしよう」とか「もうすぐピアノの発表会があるので、ぜんぜん練習していない。失敗したら恥ずかしいなあ」など、弟子たちのように、いろいろなことで心が恐れに包まれることがあるでしよう。

5月

1日 札拝メッセージ例

恐れが喜びに変えられた弟子たち

た。その後、ご自分の手とわき腹を見せられたのです。どうしてイエス様は、手やわき腹を見せられたのでしょうか。イエス様の両手には、十字架で打たれた釘のあとがあります。わき腹には、やりで突かれた傷が残っていました。イエス様は、「自分が十字架で死んだこと、しかし確かに復活したことを弟子たちに証明されたのです。イエス様の体は復活して永遠の体になつていきました。でも、イエス様が受けられた傷は残っていたのです。イエス様は、弟子たちや私たちの罪を赦すために永遠に残る傷を受けたのです。弟子たちは、目の前にいる方が復活されたイエス様だと分かったのです。

イエス様はもう一度「安かれ」と声をかけられました。それは恐れの中にいる弟子たちに平安を与えるためだったのです。私たちもいろいろな恐れに包まれことがあります。「イエス様も助けてくれないかも知れない」と思うような時にも、イエス様はその恐れの真ん中に来られて平安を与えてくださいます。もし恐れがあるなら、すぐに「イエス様、僕の心の中に来てください!」と祈りましょう。

♪歌いつづけよう　主の愛を♪（友よ歌おう28）

まとめ

復活されて弟子たちに現れたイエス様は、皆さん所にも来てくださっています。目に見えなくともイエス様を信じるなら、イエス様がいつも共にいてくださいることがわかります。そして、イエス様がくださるすばらしい喜びに満たされて生きることができます。



聖書 ルカ2・41～52 テーマ 両親に仕える神の御子

序論

(高橋頼)

イエスは、おおよそ三十歳になつて人々の前に姿を現し、公の生涯に入られました。しかし、それまでのことについて、聖書はほとんど語りません。そのような中で、今日の箇所はイエス様が十二歳の時、両親や親族、知人たちと一緒に過ぎ越しの祭りにエルサレムに上られた時の貴重なエピソードです。

一、過ぎ越しの祭りにて (41～50)

両親は、十二歳になつた少年イエスを連れて、過ぎ越しの祭りのためにエルサレムに上りました。両親は神を恐れ、イエスを連れてシナゴーグの礼拝に、毎週出ていたことでしよう。今回、大切な祭りに長子イエスを伴いました。家庭において両親は神を恐れ、信仰の模範を示し、その子に信仰の教育をしたのです。

（人から愛された）と言われていますが、人に愛されるということは、年長の人とも話ができる、対人関係がうまく作れる人となることにもつながります。人間的にも、社会的にも成長を遂げられたイエスの姿を見てとることができます。

二、ナザレに帰り両親にお仕えになる (51～52)

これらのことがあつた後、「イエスは両親と一緒にナザレに下つて行き、彼らにお仕えになつた」とあります。「仕えた」と言う言葉は、ただ両親の手助けとなつたというだけでなく、子どもが精神的に成長していることを現しています。実際、イエスは一家の長子として、父ヨセフの

ます。三日間搜しまわった末、ようやく神殿で教師たちとやりとりしているイエスを見つけました。〈人々はみな、イエスの賢さやその答に驚嘆していた〉のですが、両親はイエスが神殿にいたことに大変驚きました。母マリヤは〈どうしてこんな事をしてくれたのです〉と、心配して血眼になり、いなくなつたイエスを捜してましたと訴えました。この強い言葉に母の深い愛情を見ます。また、両親の細やかな愛情に育まれた、イエスの精神的な成長を想像することができます。

5月

8日 聖書講解

仕事を受け継ぎ、大工として働いて家庭を守り支えたと思われます。三十歳という年齢は、下の弟妹たちが自立し、イエスに代わって家庭を支える力となるまで成長するに十分な年月であったでしょう。主は、両親と家庭にしつかり仕えられたのです。そして、家庭の責任を全うされました。このように、おおよそ三年の公生涯に先立つ三十年の隠された生涯があつたことを忘れてはいけません。

12 イエス自ら「あなたの父と母を敬え」（出エジプト20・12）の律法の命令を見事に成就されたのです。

三、「いらっしゃい、これはあなたの母です」

（ヨハネ19・27）

私は今、八十三歳の末期ガンの母を牧師館に引き取り、介護をするようになりました。介護には心を尽くすだけではなく、時間もエネルギーも必要です。私も家内もこのようことは思つても見なかつたことでした。家内にとつては、クレネのシモンのように、介護現場からは傍観者の立場から急に当事者として引き出され、無理やりに負わされた十字架でした。老いと病によって認知症が進む母は、時に以前とは全く違う姿をもつて日常生活の中に現れ、私たちはしばしば悲しい思いをすることがあります。そのような時、

結論

「いらっしゃい。これはあなたの母です」。そのとき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとつた（ヨハネ19・27）とのみ言葉が、新しく、具体的に迫ってきました。幸いにも母は主を受け入れ、自分なりの信仰の告白をし、洗礼を受けてくれました。落ち着いて穏やかな時には、「ありがとう」としみじみと感謝の言葉を口にし、祈りを共にし、主の祈りもはつきりと祈ることが出来ます。教会の皆さんのが良い理解と協力をいただいて、励まされています。そして、主のものとされた母、認知症の母を新たに受け入れ、出来るかぎり最後まで看取りをすることが、もう一つの主からいただいた働きだと受け止めることができます。になりました。

それぞれに、それぞれの母がいます。肉親以外の方や、主にあつて神の家族のお一人を引き受けることもあるでしょう。それぞれの引き受け方、愛し仕えるかたちがあります。しかし、みな、神に従い、両親に仕えられた主イエスが模範です。「イエスは両親と一緒に」・「ナザレに下つて行き」・「彼らにお仕えになつた」。一つ一つの語句が、とても味わい深い言葉だと気付かされています。

8日 研究資料

研究資料

(中島啓)

テキスト

41 過越の祭には毎年エルサレムへ上つていた 「年に三

度、すなわち種入れぬパンの祭と、七週の祭と、仮庵の祭に、主の前に出なければならない」（申命記16・16）とある。しかし、都から離れて住む者は、それを厳格に守ることは不可能であり、イエスの時代には敬虔なユダヤ人でも過ぎ越しの時だけ巡礼するのが一般的であった。

42 イエスが十二歳になつた時も ユダヤ社会では十三歳で成人と見なされ、律法の遵守を求められた。そして十二歳から一年間かけて、父が息子に、律法や社会常識などの訓練を行つた。

43 ～45 祭が終つて帰るとき 巡礼の往復では、同一地域の者たちで旅団を結成するのが一般的であった。それによつて盜賊などの危険から身を守り、また費用や旅の計画の負担を軽減することができた。その旅団の中では、女性と子どものグループが先に行き、男性グループが後ろから行つて、日ごとに予定地を決めて落ち合つのが通例であつた。道連れの中にいることと思ひこんで ヨセフは、イエスが

母親か親類と一緒にいると思い、マリヤも、父親がその道中で息子に成人に向けての訓練を授けていると考えたのか知らない。これはその状況下では当然の考え方であつて、決して無責任なことではない。一日路を行つてしまい、「一日路」は大まかな距離の単位でもあるが（民数記11・31）、ここでは一日の旅程が終わつて初めて息子の不在に気付いたということだろう。

46 ～47 三日の後に 気付いたときを含めて三日目。すなわちエルサレムまで戻るのに費やしたのが二日目、そして次の三日目にエルサレムを捜索した。イエスが宮の中で

教師たちのまん中にすわつて、彼らの話を聞いたり質問したりしておられるのを見つけた その時代、教師たちは、

神殿の中庭などで弟子や傍聴者たちを教えていたようである。その教授法は、まず弟子の側から質問がなされ、そこから討議が始まるという形式が一般的で、その質問に対し教師が質問を返す形で答えることもあつた。少年イエスは、場違いに質問を繰り出したのではなく、その場のルールに基づいて、適切に振る舞つたのである。イエスの賢さやその答に驚嘆していた イエスの質問の鋭さ、そして教師の質問に答えるイエスの律法理解の深さに、人々は驚嘆した。

5月

80日 研究資料

ル力はしばしば、人々の驚嘆を神の臨在の証言として用いる（5・26など）。しかしでもその驚きは、イエスと父なる神との関係を間接的に証言している。イエスは人から学んだ知識で律法を解釈したのではなく、父なる神から与えられた知恵によってそれをなしたのである。

48～49 おとう様もわたしも心配して…

マリヤの心配は当然であるが、ヨセフを指す「おとう様」が、続くイエスの語る「父」を、対照的に浮かび上がらせる。わたし自分が自分の父の家にいるはあいひをひなかつたのですか？イエスは神を自分の父と呼び、神の御子としての御父との関係を証言された。かつて御使いが「生れ出る子は…神の子と、となえられるでしょう」（1・35）と告げたところ、イエスは真の神の子なのである。

50 両親はその語られた言葉を悟るにいたしませなかつた

彼らは、わが子が神の子であるところを悟り、その時はそれを十分に理解することができなかつた。神の御子の受肉という奥義は、彼らほど敬虔な者にとっても、十字架と復活という光を通してしか、理解できなかつたのである。この出来事は、変貌山での出来事（9・35）のように、御父と御子の関係についての一時的な開示であつたと言える。や

してそれが終われば、変貌山の時と同じように、イエスは、今までどおりの日常、両親に対する従順に戻られたのである。51 両親と一緒にナザレに下つて行き、彼らにお仕えになつた 神の子が父の家にいたまらず、ヨセフたちとナザレに帰り、彼らに仕えたことに、キリストの謙卑と受肉のひな形を見ることができた。母せしめらの事をみな心に留めていた 敬虔で賢明なマリヤは、その時は理解できなくて、それを大切に覚えておいた（2・19参照）。それはイエスの復活の後、覆いが取りのけられ、意味が明らかにされたことを暗示する表現である。

52 イエスはおますます知恵が加わり、背だけも伸び、そして神と人から愛された

（1）に示されているのは2・40に続く、靈と心と体の全人格的な成長である。御父との関わり、両親をはじめとする隣人との関わりにも愛があるれている。そして時が満ちて、次にイエスが登場するときは、その使命に対する準備が整えられていたのである。

参考図書 注解書 E. E. Ellis (New Century Bible), J. Nolland (Word), I. H. Marshall (NIGTC). わの他 The IVP Bible Background Commentary: NT.

8日 札拝メッセージ例

ていきましょう。

イエス様は、両親にどのようにしておられたでしょうか。

聖書 ルカ2・41～52
タイトル 喜んで仕えよう！
暗唱聖句 それからイエスは両親と一緒にナザレに下つて行き、彼らにお仕えになった。

目標 両親に仕えられたキリストの模範になら、両親を敬う者となる。

導入

(飯田勝)

今日は母の日です。この日は、今から約百年前のアメリカであつた出来事がきっかけでした。そこから母の日が始まつたのです。ジャービスという婦人は、長い間、教会学校の先生でした。彼女の娘アンナは、お母さんから聖書のお話をよく聞いていました。

ジャービスが天に召され、記念会が行われた時、アンナはお母さんに感謝を込めて、記念会に来られた人たちにカーネーションを配つたのです。それが多くの人々に感動を与え、「母の日」として全世界に広がつて行つたのです。私たちも、日ごろお世話になつておる母さんに、心から感謝を表しましょう。そして、お母さんを大切にし

天の父に仕えられたイエス様

過ぎ越し祭の時、少年のイエス様はお父さんとお母さんと一緒にエルサレムへ行かれました。でも、帰る途中、イエス様は両親と離れ離れになつてしましました。

皆さん、迷子になつたことがありますか。よく「デパートなどで「♪ピンポンパンポーン♪お知らせいたします。今、○○くんがお連れの方をお待ちになつておられます。心当たりのある方は、案内所までお越しください。♪ピンポンパンポーン♪」というアナウンスを聞いたことがあるでしょう。でも、ここではイエス様が迷子になつたのではありません。両親がイエス様を見失つてしまつたのです。両親はエルサレムに戻り、三日間も一生懸命、イエス様を捜しました。するとイエス様は、神殿におられたのです。お母さんのマリヤは思わず「なぜこんな所にいるの！心配したのよ！」と言いました。するとイエス様は「わたし自分が自分の父の家にいるはずのことを、ご存じなかつたのですか」と応えられました。「父の家」とは、神様がおられた

5月

8日 札拝メッセージ例

る神殿のことです。

イエス様は神の子です。ですから、天の父である神様に仕えることは当然のことだったのです。イエス様は、両親に仕える前に神様にしっかりと仕えられた方でした。

私たちも礼拝や聖書、お祈りを通して神様に喜んで仕えろ人にしていただきましょう。神様は何よりもそれを喜ばれます。

両親に仕えられたイエス様

聖書の中に「神を愛する者は、兄弟をも愛すべきである」とあります。「僕は、喜んで神様を愛し、仕えます。でも、あの人だけは愛したくありません」と言つたとしたら、それは本当の意味で神様を愛することにはならないのです。

イエス様は、神様に仕えられました。だからこそ、神様の言われた「あなたの父と母を敬え」という言葉を守られたのです。神様に仕える人は、神様の言葉を実行します。

両親と再会したイエス様は、ずっと神殿にいたわけではありません。ナザレに帰り、そこで両親に仕えられたのです。仕えるとは、仕える人の言葉をよく聴いて行うことです。

皆さんはお母さんからお手伝いを頼まれた時、喜んで

していますか？ 「え～！ 前も僕がやつたよ。今度はお兄ちゃんの番だ！」なんて言つていませんか。嫌な思いで仕えるのではなく、喜んで仕える人にされましよう。

イエス様は、神様の子です。ですから、仕える人ではなく仕えられる立場です。でも、忠実に人にも仕えられたのです。それは、イエス様が喜んで天の父なる神様に仕えておられたからです。イエス様にとって人に仕えることは、同時に神様に仕えることでもあつたのです。イエス様は、神様に仕えておられたからこそ、私たちの罪のために十字架に命まで差し出されたのです。そんなイエス様は、神様と人に愛されて成長しました。

まとめ

イエス様が神様と両親に仕えられたように、私たちもそのようにさせてもらいましょう。神様と両親に仕えることで、皆さん的心は豊かに成長していきます。

♪わたしのように♪

(ホーリネス・子どもさんびか98)



15日 聖書講解

聖書 創世記2・15～17、3・1～7 テーマ 罪の起源

序論

(金井信)

十字架と復活の福音を心に刻み、喜びたたえてきました。また両親を敬うことを通して、主との言葉に従うことを学んできました。あらためて、なぜ福音が必要なのか、み言葉に従わないことがどんなに恐ろしいことか、罪の起源にさかのぼつてみましょう。

一、神の戒め
主なる神は人を造り、エデンの園に置かれました。園は豊かに潤い、「見て美しく、食べるに良いすべての木」(2・9)がはえていました。主なる神は、〈あなたは園のどの木からでも心のままに取つて食べてよろしい〉とおっしゃられました。ただ、〈善悪を知る木からは取つて食べてはならない〉と命じられました。

二、へびの存在

一章において「地を従わせよ。…全ての生き物とを治めよ」と命じられた人間ですが、今度は、自分自身の心を主

魔の存在を示すものです。しかし、人間の側に隙がないでこそ、ここに登場するへびは、人を誘惑し、神にそむかせる悪

の戒めに従つて治め、従わせなければなりませんでした。最大の難関ですが、神の言葉に従うことのできる自由な意

思を、すでに人は与えられています。

神の戒めは、人を苦しめるためではなく、命を保たせるためのものです。また、神のかたちに造られた人間に、「これができるよ」と信頼が込められた言葉です。「戒め」と聞くと、どうしても窮屈に感じますが、神は全体的には人に自由を与えられるお方です。十戒を見ても、神と隔てなく交わりがあれば当然のことや、人間関係でも本来する必要のないことをあらためて戒められているだけです。

〈食べると、きっと死ぬ〉という言葉も人をおどす言葉ではありません。まだ死が入ってきていたときには、死の恐ろしさも悲しさも人は知りませんでした。善惡の木

に関する戒めは、この木の実に何か毒があるからではあります。神に従うことよりも自分の考えを選んで、命の源から切り離されてしまうことが、死そのものなのです。

ば、へびも立ち入ることはできません。

へびの言葉は、人の目を、神から与えられた「どの木からでも」という大きな自由からそむけさせ、小さな禁止の方に向けさせました。また、その禁止が、「どの木からも取つて食べるな」という、大きな重荷であるかのように感じさせました。

「これこれをしなさい。他のことは考えてはいけない」というのと、「これだけはしてはならない。しかし、他は自由にしなさい」というのと、どちらがより人間らしく、また創造的に生きることができるでしょうか。

へびの言葉は、神に従うことは縛り付けられることなのではないかという、疑いの心を起こさせました。エデンの園という、これ以上ない恵まれた環境にいるのに、人間は客観的に自分の姿と周囲を見ることができませんでした。やはり、「み言葉にしたがつて、それを守るよりほかにありません」（詩^{11・9}）とあるように、神の言葉に従う以外に、自分を正しく保つことはできないのです。

三、心がひかれて

へびの言葉は、神の言葉を否定し、人間に自由がないか

のように誘いかかけました。女は答えますが、「これに触れるな」と神の言葉に付け加えて強調し、一方では「死んではいけないから」とゆるめています。

神の言葉からそれだした女は、ついに禁じられていた木の実に目を向け、そそのかされて手を伸ばし、食べてしました。

また、女にその実を手渡された夫も、食べてしまいましました。男は女のそばにいながら、へびとのやりとりにも、女が手を伸ばして実を取ることにも関わってきません。「肉の欲、目の欲、持ち物の誇」（ヨハネ^{2・16}）と指摘される罪の根も、愛のあらわれてこない「無関心」も、初めの罪から存在し、今に至っています。罪はまず心の問題であり、神と交わる靈の問題なのです。

結論

罪の本質は、神のもとで生きることをやめることです。誘惑や試練によって疑いと不信仰に陥らせる罪の力には、み言葉に正しく立つて神との交わりに守られるほかはありません。

15日 研究資料

研究資料

(井上義)

新年度は創造の単元より始まったが、教会暦によつて棕櫚の主日、復活節の箇所となり、母の日が続いた。今週より創造の次となる人間の墮落の単元が始まる。本箇所はエデンの園で起つた、ヘビが関わる誘惑、人間の陥罪の記事である。

テキスト

15 エデンの園 エデンは発音どおりの音写で、語源は明らかではない。シユメール・アッカド語のエディヌ(荒地、または平地)から来ているとも考えられる。**園**(^ヘガン) 囲われた場所という意味である。ギリシャ語七十人訳聖書では、ペルシャ語源のパラディソン(英語のパラダイス)と訳出。エデンの園とパラダイスを同一視する考え方はこれから来ている。地理的には一般にチグリス川、ユーフラテス川の間の地域と考えられるが、明確に同定することはできない。**これを耕させ、これを守らせられた耕させ**(^ヘガン) 耕作、農耕を意味する。人間の勤労は農業と、園の管理から始まつたのである。神がまず動かれて創造がなされたように、人間の怠惰、安逸のために園が造られた

のではなく、神に仕えるためである。

16～17 あなたは園のどの木からでも心のままに取つて食べてはべてよろしい。しかし善惡を知る木からは取つて食べてはならない。 神は人間に、他の動物にはない自由意志を与えた。人間が神のかたちに造られ、神との愛の交わりを持つものとされたからである。自由とは、好き勝手と同義語ではなく、明確な責任を伴うものである。人間は神の被造物として、神に従順であることが求められている。神の命令を守ることは、人間の側で何の解釈も差し挟むことのできない絶対なものである。食べてはならないという動詞は強意語幹が用いられ、最も強い禁止を表わす表現となつてゐる。**それを取つて食べると、きっと死ぬ** 禁じられた木の実を食べることの刑罰は、死という厳しさである。神の断固とした意思を思わされる。

1 ヘビ(^ヘナーハース) ヘビを指すいくつかの言葉が旧約聖書中にあるが、一般的に用いられる語である。ヘビは各地の神話や伝承に良く出てくるが、古代中東でも魔的な関連をもつものとして捉えられてきた。默示録12・9では悪魔は年を経たヘビと記されている。誘惑と陥罪にへびは関わつたが、短絡的に動物のヘビが悪魔であるとは言

5月

15日 研究資料

えない。ヘビが最も狡猾であった 新共同訳では、狡猾を賢いと訳出。この出来事で人間は自由を誤って用いたように、ヘビは賢さを誤つて用いた。どの木からも取つて食べるな 人間に罪を犯させようとするヘビの巧妙なすり替え、誘導が始まる。ヘビが悪魔であるとは言えないが、悪意、邪悪さは際立つものがある。神が食べるなど命じられたのはただ一本の木であるのに、ヘビはまるで全部であるかのようにエバに問い合わせた。人間は神の善意を全く疑わなかつたが、ヘビの問いは神が厳しく理不尽であるかのように思わせた。

3 これに触れるな、死んではいけないから エバはヘビの誘導にのせられてしまう。ヘビの問いは誤った問い合わせであるから、「違う」と明確にヘビを退ければよかつた。触れるなとは神は言われていない。神は「死んではいけない」と言われたのではなく、「きっと死ぬ」と言われた。エバの心の変化、退歩をヘビが見逃すはずはなかつた。

4 あなたがたは決して死ぬことはない 神が「きっと死ぬ」と言われたことを、ヘビははつきりと否定している。神への恐るべき反逆である。

5 あなたがたの目が開け、神のよい工善悪を知る都ひな

る ヘビの論点は、神は人間を「自分よりも低い存在に止めておくために、禁止をされている」という点にある。ヘビはこのことが極めて不当なことのように、エバに思い込ませようとした。ヘビは人間が神のようになるという、素晴らしい魅力を語つて誘惑した。

6 食べるに良く、目に美しく、賢くなるには好ましいすでにエバからは、ヘビの言葉を否定し、正しい道に歩む力がそぎ取られていた。誘惑は理性に働くのではなく、五感に働く。その実を取つて食べ、…彼も食べた 神様に従うことを踏みにじつたエバであった。側にいて止めるべき夫も、無批判に同調し、同じ行動をとつた。

7 ふたりの目が開け ヘビが言つたように、即座に死ぬことはなく、二人の目は開かれた。しかし、二人は神のようになつたのではない。二人が最初に知つたのは、罪と恥である。それは、罪の結果として、神を避け、自分を覆い隠そうとする行為である。二人の体はその場で死ぬことはなかつたが、死は確実に入り込んだのである(ローマ6・23)。

参考図書 G.Ch.Aalders (Bible Student's Commentary) 他

15日 札拝メッセージ例

聖書 創世記2・15～17 3・1～7
タイトル 恐ろしい罪
暗唱聖句

善悪を知る木からは取つて食べてはならない。それを食べると、きっと死ぬであろう。

創世記2・17

目標 罪が不信仰から生まれることを知り、
み言葉に信頼し、従う者となる。

導入

(飯田勝)

皆さんは、失敗をして学校の先生やお父さん、お母さんから怒られたことがありますか？その時、皆さんは、どうして失敗してしまったのか反省すると思います。もし反省がなかつたら、また同じことを繰り返してしまつからです。今朝の箇所には、アダムとエバが失敗してしまつたこととが書かれています。このことによって、私たち人間に恐ろしい罪が入りました。どうして、アダムとエバは失敗してしまつたのでしょうか。そのことを知れば、私たちは守られるのです。

神様の言葉

さて、問題です。最初の人「アダム」は誰によつて造られました。

だれ

たでしようか？そうです、神様によつてです。これは私たちにも同じことが言えます。私たち一人一人は、神様の作品として造られました。そして、神様は皆さんを愛しておられるのです。アダムも神様から愛されていました。ある時、神様はアダムをエデンの園という素晴らしい所に連れて行かれました。そこで生活できるようにしてくださいつたのです。アダムは、とても喜んだに違いありません。神様は、アダムがそこで生活する前に、一つの命令をされました。それは園のどの木からも思うままで取つて食べて良いが、善悪を知る木からは取つて食べてはいけない…:という命令でした。食べるときつと死ぬから、と言わされたのです。命令されると言うと、何か嫌な感じがする人もいるかもしれません。でも、神様の命令は、私たちが幸せになるための大切な教訓の言葉なのです。今も神様は私たちに大切な言葉を与えておられます。それが聖書です。神様の言葉である聖書を読んで守る人は、幸せになれるのです。

悪魔の誘惑

神様は、アダムにエバという奥さんを与えられました。アダムはエバと一緒に助け合つて生活ができました。それはエバと共に、神様と親しく生活できる幸せでいっぱいの毎日でした。

5月

15日 札拝メッセージ例

しかしある時、エバのところに悪賢いヘビがやつてきました。ヘビはエバに近づき、彼女に「神様は、園のどの木からも取つて食べるな、と本当に言われたのですか」と話しかけてきたのです。これはエバに疑いを持たせようとする言葉でした。ヘビの言葉に対し、エバは『「どの木から食べても良いが、園の中央にある木からは食べんな、死んではいけないから』と神様が言われた』、と答えたのです。神様は「きっと死ぬであろう」と言われたのに、エバは神様の命令を「死ぬといけないから」に変えてしまったのです。エバは神様から聞いた命令どおりには、へびに答えなかつたのです。エバは、へびの悪賢い言ひにかかつてしまつたのです。ヘビは続けて、エバに言いました。「あなたは決して死ぬことはないでしよう。それを食べる」と目が開け、神のように善悪を知る者となることを、神は知つておられるのです」と。すると、エバはへびの言葉にすっかり騙されてしましました。取つて食べてはならない木の実を食べてしまつたのです。そして、それをアダムにも与え、彼らは二人とも罪を犯してしまいました。

ヘビとは、悪魔のことです。皆さんは、悪魔がいることを知っていますか。悪魔は、皆さんを不幸にしようと誘惑をして来ます。悪魔の誘惑にのらないように気をつけましょう。

アダムとエバのようにならない

皆さん、アダムとエバの失敗を笑えますか。私たちも、彼らのような失敗を、しないとは限りません。ですから、どうして彼らが失敗してしまったのかを知ることは大切です。エバは神様の言葉よりへびの言葉を信じてしまつたのです。また、アダムは直接、神様の言葉を聞いていたにも関わらず、従うことができなかつたのです。

私たち、悪魔の誘惑から逃れることはできません。でも、誘惑に負ける必要はないのです。悪魔は、私たちに「神様を信じたつて何の意味もないし、聖書の言葉は本当ぢやないよ」と心に語りかけてくることがあります。もし、皆さんが悪魔の誘惑に負けて、神様を疑つなら、アダムたちと同じ失敗をしてしまうでしょう。

まとめ

ですから、神さまの言葉をよく聞きましょう。そして、それを疑つたり忘れたりしないで、いつも心に留めておきましょう。

♪せいしょは とうとい♪

(ホーリネス・子どもさんびか

128)



聖書 創世記3・6～19 テーマ 罪の結果

序論

(金井信)

主の言葉に従わず、自分の思いのままに行動した人と女性に大きな変化が起こりました。すぐに心の中に起つた「恥ずかしい」という気持ちと、やがて明らかになつてくる「死」です。どちらも神との関係が断たれたことの結果でした。

一、身を隠す者に

禁じられていた木の実を食べてしまった二人は、主の歩まるる音を聞いて身を隠しました。さらに「あなたはどこにいるのか」との主の呼びかけに、「わたしは裸だつたので恐れて身を隠したのです」と答えました。

二、「死」が入り込む

ここには神との関係が断たれた結果として、人は「裸」、「恐れ」、そして「身を隠す」という三つのことを感じています。

今までも「裸」でしたが、罪を犯してからは、裸であることを恥じ、恐れるようになりました。自分の身を守つておられる主への信頼を失い、主に見られて困る部分が自分

にあることを意識するようになったからです。これはそのまま、他人との関わりにおいても、互いの信頼を失い、自分の姿をそのまま見せられない関係しか持つことのできないものとなりました。

禁断の木の実を食べた後、ヘビの言葉どおり、「善悪を知る者」となりましたが、善惡を治めて、悪を遠ざけ、善に進む力はありません。また悪を行つた結果の罪を始末することもできません。

ヘビは「決して死ぬことはないでしよう」と言いました。確かに、木の実を食べてすぐに二人が死ぬということはありませんでした。しかし、確かに死は入り込みました。命の源であり、体だけでなく、心も靈も養い守られる主との関係が断ち切られたからです。

人は、罪が入り込んだときから、呼んでも答えが返らず、自分の意思で自分の体を動かせない死の状態に陥りました。「死」とは、神との関係も、人との関係も通じなくなり、正しく反応できなくなっていることです。

主が「これを食べてはならない」と命じられたのは、木

5月

22日 聖書講解

の実に毒があるからではなく、神と人との関係を正しく保つために境界を定めるためでした。

人が神のようになろうとして、この境界を踏み越えてしまったとき、神との関係を失うだけでなく、自分が何者であるのか、どこから来てどこへ帰るのかということを見失つてしまいました。直ちに死んだのではありませんが、死に向かって滅びの道を転がり落ちる者となつたこと、それが主の告げられた「きっと死ぬ」ということでした。

三、責任を認めない

神との関係を失つた人は、共に神の前に歩み、神の御旨のままに互いを愛し合つて生きるはずだつた人との関係も失いました。〈あなたは取つて食べたのか?〉と問われても、自分が犯した罪を認めることも、責任を負うこともせず、〈わたしと一緒にしてくださつたあの女〉と、責任を女に、さらには女を与えた神に転嫁しようとします。先には「わたしの骨の骨、肉の肉」とまで喜んでいましたが、神に支えられない人間の愛のはかなさがよく表れています。後に人と女は、息子が与えられますが、兄のカインが弟

のアベルを殺すという、大きな痛みを経験します。善悪を治める力がなく、責任を負おうとしない罪の性質そのものを、自分たちの歩みを鏡に映すように見せられることになりました。

主なる神は、ヘビに、女に、そして人にそれぞれのさばきを下されました。「罪を犯した者は、その者が死ぬ」(新改訳・エゼキエル18・4)との原則は、はじめから示されています。額に汗して働き、また人間関係の破れを目ま当たりにしながら、生きていることの辛さを経験しなければならない、そこにも死の力が及んでいます。

人が罪を犯してからの度々の主の言葉は、人に痛みをもたらしました。しかし、主は切り捨てるためではなく、人に罪を自覚させ、救いを求めさせるために、愛をもつて呼びかけ、あえてきびしくさばいておられるのです。

結論

罪を罪としてさばき、ひとりの魂も滅びることを望まれず、救いの手を差し伸べておられる主の前に、自分の罪の真相を認めて、そのまで近づき、み言葉に従つて命の道に歩みましょう。

研究資料

(井上義)

先週に続いて、エデンの園で起つた、人間の^{かんざい}陥罪の記事である。

テキスト

6 食べるに良く、目には美しい、賢くなるには好ましい

食べるに良いという思いは、食欲という肉欲に働きかけた。目には美しいという感情は、所有欲、独占欲に働きかけた。賢くなるだろうという感覚は、高慢な思いからの名譽欲に働きかけた。エバは悪魔の声に耳を傾け、心を動かされた。今まで目についても、さほど気にかけなかつた実を新たに眺めた。その実に手を伸ばし、口に運んで食した。罪に至る誘惑は、自制心をマヒさせるほど強く感情に働く。罪を実行するまでには幾つかの段階がある。エバはアダムにも実を食べるよう勧めた。罪は次の罪を生み出していく。

7 ふたりの目が開け ヘビが言つたように、即座に死ぬことはなく、アダムとエバの目は開かれた。しかし、二人は神のようになつたのではない。二人が最初に知つたのは、罪と恥である（先週に同じ）。二人が今まで裸であつたのは、神との間の隔ての無さを表している。裸でありながら、男女の性的な差異があつても、恥ずかしさや欲望を感じなかつた。それ以後の関わりとは違うきよい交わりが、男女間にあつたことを示している。対神、対人それぞれの関わりは、現在とは異なる形の親しさであつた。

二人は、いちじくの葉をつづり合わせて腰に巻いた。この行為は、手近なもので罪を覆い隠そうとする人間の本性を表わしている。

8 日の涼しい風の吹くころ 夕方を表す慣用句である。

ユダヤ人は古代、昼を四つの時に分けたが、第三の時である午後三時から六時に当たる。海から陸に向けて強い風が吹く時間帯である。**神の顔を避けて、…身を隠した** 神の顔という表現に、神の人格性を見ることができる。顔と顔を合わせるという、個人的な対面を神は望まれている。罪は神から人間を遠ざけ、神との交わりを分断させるものである（イザヤ 59・2）。

9 あなたはどこにいるのか 神は、身を隠した二人がどこにいるのか解らないお方ではない。一人が神に対しても、明白に応答するように求めておられるのである。今まで、「はなはだ良かつた」（1・31）という完全な調和があつ

5月

22日 研究資料

たが、人の不服従によつて打ち消されてしまった。神の痛みと悲しみの響きが伴う言葉である。

11 あなたは取つて食べたのか 木の実を食べる以前は、裸であることさえ知らなかつたアダムである。全知である神は、何があつたのかをすべてご存知であつた。神の質問の意図は、アダムが罪を認め、罪と向き合うことにあつた。アダムは、自分が犯した罪の責任を負おうとはしなかつた。

12 わたしと一緒にしてくださつたあの女 このできごとの責任は、エバを造り自分に与えた神にあり、エバが誘惑に負けたことにあると、アダムは不平を述べる。

13 ヘビがわたしをだましたのです ヘビは悪意をもつてエバに近づいた。エバにはヘビの意図を十分に知る力はあつた。エバはヘビの言葉を否定し、ヘビを退けるべきであつた。ただヘビにのみ責任を負わせることはできない。

14 最ものろわれる 14節以降には、神に背いて神の命令に従わなかつたヘビ、エバ、アダムへの処罰が語られる。最初にヘビである。ヘビは賢さを誇っていたが、賢さを悪いとなつた。腹で、這いあるきのろわれる以前は足が

あつたということなのか、どのような移動をしていたのかも解らない。以前はどうであれ、現在のように身をくねらせ、腹で地面を這うという姿にへりくだせられた。ち

りを食べる 実際にちりを食物とするといふことではない。へりくだせられるという慣用的な表現である(詩篇72・9他)。

16 産みの苦しみを大いに増す 他の動物と比較して、人間は二足歩行のゆえに最も難産である。エバは命の木の実をも食べようとしたかも知れない。新たな命を生み出されために大きな代償を払わなければならなくなつた。あなたは夫を慕い、彼はあなたを治める エバが神に背いたのは、神よりも上に立とうとした傲慢こうまんがあつた。エバは支配したいと願つたが、支配される側に立たされた。

17 地はあなたのためのろわれ エデンの園では、労働は神への喜びの献げものであつた。しかし、労働は、日々の糧を得るために、苦役さえ覚えるものになつてしまつた。19 土に帰る 神への背信、不服従は、労働の困難さのみならず、死という最大の代償を支払うことになつた。

参考図書 先週の他、B・F・バックストン『創造と墮落』他

5月

22日 札拝メッセージ例

聖書	創世記3・6～19
タイトル	心を点検しよう！
暗唱聖句	罪の支払う報酬は死である。
日付	ローマ6・23

導入

ある所に、俊介君という小三の男の子がいました。ある時、お母さんが買い物に出かける前に「今からお母さん買い物に行くけど、台所にあるお菓子は絶対食べてはダメよ」と俊介君にされました。「うん、わかった」と俊介君は答えました。しかし、お母さんがいない間に、俊介君はこつそりお菓子を食べてしまつたのです。皆さんは、「やつてはダメ」と言わると逆にやりたくなつてしまつことないですか。それはどうしてでしょ。原因を探していくと、それはアダムとエバの失敗にまでさかのぼるのです。

(飯田勝)

罪の結果の恐ろしさを知り、罪を悔い改める。

神様の言葉を疑つてしまつたからです。そして、彼らは「食べたら死ぬ」と言われた実を食べてしました。そのことによつてアダムとエバに罪が入つてきました。

皆さんはアダムとエバの失敗の話なんて、僕には関係ない」と思いますか。実は、そうではありません。「ダメだよ」と言われたことを「よけいにやりたくない」思いは私たちの中にはないですか。「そんなのない！」といふお友だちもいるかも知れません。でも残念なことに、この思いは私たちみんなにあるのです。それは、このアダムとエバの失敗からずつと続いてきているからです。

罪が入つた私たち

皆さんは毎日、水を飲んでいます。私たちが口にする水は、浄水場できれいになつて送られて来ます。でも、浄水場に毒が入れられたらどうでしょ。毒の水になつてしまします。それは飲むことは出来ませんね。それと同じように、最初の人間であるアダムとエバの失敗によって、私たちにも罪が入つてしまつたのです。ですから悲しいことに、私たちは生まれた時から心に罪がある罪人な

アダムとエバの失敗

アダムとエバは、神様の命令に背いてしまいました。そ

5月

22日 札拝メッセージ例

のです。罪があると私たちはどうなるのでしょうか。それは罪を犯したアダムとエバを見れば分かります。アダムとエバは、罪を犯す前は、神様と仲良く過ごしていました。裸でしたが、何も恥ずかしくなかつたのです。それぞれが、ありのままの姿で生活することができます。でも、罪が入つてからアダムとエバの様子が変わつてしまつた。仲良くしていた神様が恐くなつてしまつたのです。そして、神様から隠れるようになりました。

罪は神様との関係を壊します。そして人との関係をも壊します。皆さんは、自分が悪いことをした時、お母さんや友だちが恐くなり、仲良く話せなくなつたことはあります。友だちが嘘をつかれて仲が悪くなつたことはありませんか。また、友だちに嘘をつかれて仲が悪くなつたことはありませんか。罪は恐ろしいものなのです。罪が入る前は、アダムもエバも死ななくとも良かつたのです。でも、彼らが罪を犯し、罪が入つてきたことによつて、死が入つてしまつたのです。

今日の暗唱聖句に「罪の支払う報酬は死です」とあります。仕事をすると、その代わりに給料という報酬をもらいます。同様に、罪を犯すと「死」をもらうのです。アダムとエバは、罪を犯したことで死をもらうことになつたのです。それは、私たちも同じです。皆さんの中に「僕は絶対

まとめ

恐ろしい罪が心にあれば、神様は悲しまれます。また、お友だちとの関係も壊れてしまひます。今、自分の心の中を点検してみてください。罪があれば、今日、すぐに神様の前に悔い改めましょう。

♪じゅうじか♪（ホーリネス・子どもさんびか62）

皆さんは死にたくないでしよう。皆さんの中には、死が恐いという人もいるかも知れません。私たちの体は皆、一度は死にます。もし心中に罪を持ったまま、罪を犯し続けるなら永遠に滅んでしまいます。でも、永遠に神様と共に生きることのできる人もいます。それは、自分の罪を認めて悔い改める人です。

皆さんは永遠の滅びを選びますか。そうではないと思ひます。ですから、どんな小さな罪でも神様の前に悔い改めましょう。悔い改めるとは、神様に心からあやまることです。

罪を悔い改めよう

に死がない」と言える人はいますか。私たちは罪によつて、みんな死ぬ者となつてしまつたのです。



聖書 創世記3・14～24
テーマ 救いの道

序論

(金井信)

罪を犯してから、人と女は裸を恥じて、いちじくの葉を腰に巻きました。主なる神は二人の罪をさばき、エデンの園から追放されますが、その前に一人に皮の着物を造つて着せられました。神が罪をさばく方であり、また救いの道を備えられる方であることが、この出来事に示されています。

一、救いの約束

主は人と女の前に、へびに対するさばきを宣言されました。ここから、默示録20章において「悪魔でありサタンである龍、すなわち、かの年を経たへび」(默示録20・2)が滅ぼされるまで、聖書は神に敵対する者の存在をはつきりと示しています。

私たちは、かつてはこの「空中の権をもつ君」(エペソ2・2)に従わ正在ることも知らずに、罪の中を歩んでいました。しかし、今は靈の目を開いていただき、「やみの世の主権者」(エペソ6・12)との戦いの中にあるこ

とを常に覚え、主によつて戦いの備えを与えていただかなければなりません。ただし、この戦いの帰結はすでに定まっています。

主はへびに対して「恨みをおく」、〈碎き〉と戦いがあることを告げられると共に、〈彼はおまえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを碎く〉と、最後は決定的な勝利をもつて終わることを宣言されました。これは、アダムとエバの子孫としてお生まれになる、主イエス、キリストの十字架による救いをあらかじめ示すものでした。十字架においてキリストは苦しめられ、命を落とされますが、これは人のすべての罪のさばきを代わつて負い、贖いをなしとげるためであり、復活されたキリストは罪と死の力に対して完全に勝利されました。

主は、罪を犯した者に、罪を自覚し悔い改めるよう呼びかけるだけでなく、自らの主権をもつて罪の力を滅ぼす救いの約束を与えられたのです。

二、備えられた皮の着物

救いの約束は希望として与えられましたが、この約束を信じて受けるとして、主は人と女に皮の着物を造つ

て着せられました。

裸を恥じて二人が身にまとっていたのは「いちじくの葉」でした。すぐにちぢれ、動くと破れるようなものです。人が自分を隠し、また飾ろうとしても、一時的であり、また取り繕い続けなければならないものです。

しかし、神が与えられるのは、ただ丈夫であるだけなく、罪人を赦す^{ゆるす}、清めることのできる着物です。

「皮の着物」が造られるためには、何かの動物が殺され、血を流さなければなりません。創世記は、ノアの洪水後まで、肉を食べることが許されていないように読むことができますから（1・29、9・3）、ただこの着物のために犠牲が払われたのです。

罪のために死が入り込みましたが、最初の死は自分が守られるためだったことを、人と女は知られます。これは、やがて十字架につけられるキリストが、私たちのための「義の衣」となつてくださつたことに結びつきます。私たちは「主イエス・キリストを着なさい」（ローマ13・14）と勧められています。これ以外に神の前に立つことも、また罪の世にあつて罪に打ち勝つこともできないからです。

三、神のもとに帰る道

救いの約束を聞き、皮の着物を着せていただいたアダムとエバですが、エデンの園にとどまることは許されませんでした。もしまだ誘惑に負けて命の木から取つて食べると、罪の解決を得ないまま永遠に生きるという、地獄の苦しみを受けるからです。

人が追い出された後、エデンの園は天的な存在によつて守られます。つまり、そこへの道は人の目には隠されたのです。それは、人の知恵や力ではなく、主の約束への信仰による救いの道に導くためでした。旧約時代には、来るべき救いの主を信じて義とされ、今はイエス・キリストの十字架の贖いによって、私たちは罪赦された喜びと感謝をもつて、大胆に神の前に出て行くことができるのです。

結論

救いの道は、すべて主の主権によるものです。私たちはただ、自分の罪を認め、悔い改めて、主イエスを救い主と信しましよう。み言葉が私たちの救いを証しし、励まし助けています。

29日 研究資料

研究資料

(井上義)

さらに先週に続いて、エデンの園で起った人間の陥罪の記事である。神は、単なる処罰に終わらせず、救いへの道を最初から備えられたのである。先週、先々週分研究資料も参照されたい。

テキスト

15 彼はおまえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを碎くであろう へびに対するのろいについて語られた箇所である。**碎き** (ヘブ) 旧約聖書中、他に「碎く」と訳される語はあるが、この語は他に二箇所に出てくるのみである。「破壊する、こなごなにする」という強い表現を持つ言葉である。へびと女との間に、へびの子孫と女の子孫との間に恨みを持つ、敵対関係が生まれた。へびとは、私たちが目にする爬虫類のへびを越えて、黙示録で言及されるように、「年を経たへびと称される悪魔」をも指している(黙示録12・9、15、20・2)。女のすえとは、時が満ちて母マリヤから生まれるイエスを指している。互いに碎く、碎かれるとは、悪魔とイエスとの十字架の場面での戦いについての記述である。イエスは、エ

デンの園での人類の陥罪以来、人類のすべての罪のがないとして、十字架の上で命を捨てられた。イエスの十字架の死によって人類に救いの道が開かれた。この救いの成就によつて、人を罪に落としいれ滅びに向かわせる悪魔の働きは、大きな打撃を受けた。イエスは十字架において、悪魔に対して、かしらを碎くという致命傷を負わせたのである。悪魔もまた、イエスを十字架の死に追いやり、つまり、かかとを碎いて抵抗した。かかとの傷では身体の生命に関わる機能は損なわれない。イエスは復活の栄光によつて救いを成し遂げ、信じる者に永遠の命を保証された。悪魔は今も人を惑わし罪を犯させ、神から引き離そうと躍起になつてゐる。先に黙示録の言及に触れたが、悪魔は新天新地が完成される前に、完全に滅ぼされることが定められている(黙示録20章参照)。現在、悪魔は靈的な働きを続けているが、それは残された期間の中での限定されたものである。この箇所はプロトエバンゲリウム(原福音)と称される。人類が最初に罪を犯してエデンの園から追放される時に、すでに救いの福音が提示された箇所であるからである。

20 人はその妻の名をエバと名づけた エバ(ヘブ)

5月

29日 研究資料

ギリシャ語七十人訳聖書で「ユア」と翻訳され、やがてエバとなる。「命、生き物」を意味している。エバは、カイン、アベル、セツを生み、人類の原初の母となつた。

21 皮の着物を造つて、彼らに着せられた 神はアダムとエバをエデンの園から追放される前に、皮の着物を造つて、彼らに着せられた。善悪を知る木の実を食べた時に、彼らはいちじくの葉をつづつて腰に巻いた。すぐに破れ、ちぢれてしまふものではなく、神は丈夫な衣服を与えた。罪のない動物が犠牲となつて、彼らの身を守る装いが造られた。旧約でささげられた動物の犠牲を越え、私たちのために十字架であがないとなつてくださつたイエスを想起させる出来事である。

22 人はわれわれのひとりのよになり、善悪を知るものとなつた アダムとエバは善惡の木の実を食べたことによって今まで知らなかつたものを知つた。彼らは、善惡の区別を知ることはできたが、善を行い、惡を退ける力は不十分であつた。善とは神に従うことである。善に生きる者であるなら、神の命令に反して、命の木の実を食べるはずはない。神が心配されたのは、先と同じように、誘惑に負けて命の木の実を食べ、悪に染まつたまま永遠の命に生きる

ことである。人は罪をあがなわれ、義とされ、神の子とされて、永遠の命に生きなければならぬ。イエスの十字架のあがないのみが、永遠の救いの源なのであるから。

23 エデンの園から追い出し 神に背いた罪の結果、女性は産みの苦しみを持つものとなり、男性は苦労して日毎の糧を得るものとなつた（先週分研究資料参照）。人はエデンの園から追放された。エデンの園をパラダイスとする考えから、この出来事は失楽園と言われる。

24 ケルビムと、回る炎のつるぎ ケルビムは天的な存在であり、一般には手足を持ち、翼をもつて飛びかける。ケルビムは理性と、超越的な力を持つ。幕屋では契約の箱の上に純金のケルビムの像が置かれた。神殿ではさらに大型のケルビム像が契約の箱をおおつていた。神殿の壁や扉にも意匠が施されていた。エゼキエルが見た幻では、人、獅子、牛、鷲の四つの顔を持ち、人の手、子牛の足、四つの翼を持つ（エゼキエル10章参照）。ケルビムと、超常的な回る炎のつるぎによつて、人は命の木にたどり着くことはできないのである。

参考図書 G.Ch.Aalders (Bible Student's Commentary) 他

29日 札拝メッセージ例

聖 タイトル	創世記3・14～24 イエス様に救つて頂こう！
暗唱聖句	主なる神は人とその妻とのために皮の着物を造つて、彼らに着せられた。
目 標	キリストによる救いを知り、救いを得る者となる。

導入

(飯田勝)

皆さんは去年、南米チリで起こった鉱山の落盤事故を覚えていらっしゃいますか。三十三名の作業員が地下七百メートルの暗いところに閉じこめられてしましました。その後、全員が助けられて、多くの人に喜びと感動を与えました。暗い所に閉じこめられた人たちの状況は、罪人である私たちと似ていると思いませんか。

アダムとエバが罪を犯したこと、私たちにも罪が入り、

罪人となってしまいました。その結果、私たちは皆、深くて恐ろしい罪の暗闇に閉じこめられてしまつたのです。でも神様は、私たちをその暗闇から救つてくださるお方です。

愛される神様

皆さんは、嘘をついたり、嫌なことをする友だちを好きになれますか。また、裏切った人に優しく話しかけたり、親切にしたりできますか。

アダムとエバは、神様との約束を破りました。彼らは、神様を裏切つてしまつたのです。その結果、神様を恐れて隠れてしまいました。神様は、裏切つて隠れてしまつた彼らを見捨てられたでしょうか。いいえ、そんなこと

悪魔を滅ぼす神様

アダムとエバは、神様との約束を破つて、食べてはいけない木の実を食べてしましました。それはどうしてだったのでしょうか？それは、へびがエバを誘惑したからでした。へびとは、悪魔、サタンのことです。悪魔は、神様と人間の、また人間同士の関係を壊そうと今も働いています。でも神様は、この悪魔を、いつまでもそのままにしておく方ではありません。神様は、アダムとエバが罪を犯した後、直接、悪魔に言わされました。「彼はおまえのかしらを碎き、おまえは彼のかかとを碎くであろう」と。つまり神様は、悪魔を必ず滅ぼされることを約束されたのです。

5月

29日 札拝メッセージ例

はされませんでした。

神様は、裏切り隠れるアダムとエバを「あなたは、どこにいますか」と探されました。しかも、彼らに近づいて話しかけられたのです。それだけではありません。神様は、裸でいる彼らのために、なんと皮の着物までプレゼントされたのです。どんな思いで彼らを探し、話しかけ、着物までプレゼントされたのでしょうか。罪を犯して呪われてしまつたアダムとエバでさえ、神様は愛されたのです。これと同じ愛で、神様は今も皆さんを愛しておられます。このことを是非、知ってください。

救つてくださる神様

皆さんの家族や大切な友だちが病気になつたら、どんな気持ちになりますか。「早く病気が治つて欲しい」と思うでしょう。思うだけではなく、励ましの手紙やメールを送つたりしませんか。

神様は、皆さんを愛されています。だからこそ、早く罪の暗闇から救われて欲しいと願つておられるのです。神様は、その救いをはるか昔から、そう、アダムとエバが罪を犯した時から、すでに約束してくださつていたのです。

アダムとエバに神様が皮の着物をプレゼントされました。皮を造るためには、動物が殺されなければなりません。愛である神様は、罪を犯した彼らのために動物の血を流されたのです。これは、イエス様が私たちの罪のために十字架で流された血のことを表しています。また神様は、悪魔に「彼はお前のかしらを碎くであろう」と言されました。この「彼」とは、イエス・キリストのことです。イエス様は、十字架で死なれました。しかし、死を打ち破つて三日目に復活されたのです。これが、神様が約束された悪魔の頭を碎くことだつたのです。

神様は、罪を犯して離れてしまつた私たちを愛し、救つたためにイエス様を与えてくださつたのです。

まとめ

罪深い私たちは、自分の努力では決して救われません。もし、ずっと罪の暗闇にいるなら心は腐り、幸せに暮らすこともできないのです。でも、イエス様を救い主と信じるなら、罪の暗闇から脱出することができます。イエス様を信じよう！

♪主はわたしを救え♪(ホーリネス・子どもさんびか57)



聖書 創世記4・1～8
テーマ 神に喜ばれるささげ物

序論

(福井)

アダムとエバの二人の子どもたちのささげ物に対しても、神はアベルのささげ物を顧み、カインのささげ物を顧みられなかつたのです。そのため、人類最初の殺人が起こつたのです。それはアダムとエバの罪が、子どもへ遺伝した結果であると同時に、信仰の有無の結果でもありました。

一、カインとアベル

罪の結果、エデンの園を追放されたアダムとエバに最初の子が与えられました。彼らが罪に陥つた苦い経験をした直後のことですから、彼らの喜びはどんなに大きかつたことでしょう。彼らはその子をカイン「わたしは…得る」と名づけました。

彼らには、まもなく次の子が与えられました。最初のカインの時のような感激はなかつたのでしょうか。また、カインが育つにつれて罪の傾向が顕著になつて行くのを見て、人のむなしさを感じたのでしょうか。アベル「息」と名づけ

ました。これは、人のむなしさ、はかなさを表しています。

「アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者」となりました。同じ両親から生まれても、その子によつて性質や才能、適性は異なります。また、職業に貴賤はありません。しかも、この家庭は、決して無神論を標榜する無宗教の家庭ではありませんでした。エデンの園の外で生まれ、墮落したアダムの息子でしたが、生まれつきの彼らに差をつけるものは何もありませんでした。彼らは罪人であり、両者とも墮落した性質を持つていましたし、両方とも潔白ではありませんでした。

二、カインとアベルの供え物

ある時、カインとアベルはそれぞれ主へ供え物を持つてきました。カインとアベルは両親から供え物をすることを教えられていたに違いありません。また両親が労働の実を供え物として主にささげているのを見ていたことでしょう。ところが、「主はアベルとその供え物とを顧みられた。しかしカインとその供え物とは顧みられなかつた」のです。二人とも供え物をしたということは共通しており、またこれらの供え物が「主への供え物」であつたことも共通して

い
ま
す。

二人の供え物の相違は、①カインはおざなりに事務的に供え物をささげたが、アベルは進んで、心から最高の供え物をささげたということです。②カインは血のない供え物をささげましたが、アベルは罪の自覚があり、神に受け入れられるために血による犠牲の供え物をささげたことです（創世記3・7、21、ヘブル9・22）。③カインとアベルはともに供え物をささげました。ですから、二人とも宗教的であります。しかし、カインは宗教的ではありましたが、信仰的ではありませんでした。アベルは「信仰によつて」ささげたのです（ヘブル11・4）。

三、罪への警告

神がアベルの供え物を顧み、カインの供え物を顧みられなかつたのは、神が人をかたより見られるからではありません。聖書に「なぜなら、神には、かたより見ることがないからである」（ローマ2・11）とあります。そうであれば、供え物が受け入れられなかつたとしても、その責任は神にではなく、ささげた側にあるのです。ですからカインは、自分の供え物が神に受け入れられな

結論

「まさつた」（ヘブル11・4）とは、「より喜ばれた」ということです。ここから最高の供え物、また信仰による供え物のことです。私たちも神の喜ばれるささげ物をする者となりましょう。

い理由が、自分自身の中にあることを認め、謙つて悔い改めるべきだったのです。ところが、「カインは大いに憤つて顔を伏せた」のです。そのカインに神は「なぜあなたは憤るのですか、なぜ顔を伏せるのですか」と悔い改めに導こうとされました。さらに、「罪が門口に待ち伏せしている」とされました。さらには、「罪が門口に待ち伏せしている」とされましたが、なぜ顔を伏せるのですが、あなたはそれを治めなければなりません。衝動に身を任せ、怒りに引きずり回されてはいけない。罪を悔い改め、神に立ち返ることによって、逆に罪に打ち勝つことができると言わわれたのです。しかし、カインは主の語りかけ、悔い改めへの勧めを無視して、心をかたくなにし、アベルを殺してしまったのです。神の警告を無視して、心の中にある罪を悔い改めないとすると、その罪は増大し、具体的な罪を生んでしまうのです。

5日 研究資料

研究資料

(宮澤)

説教に当たっては、この箇所だけでなく、この箇所の新約聖書的解釈として、ヘブル11・4、12・24、ヨハネ3・12等にも目を通しておきたい。

テキスト

1 知つた（ヘヤーダー） 単に「知る」という意味ではなく、「知り合う」、「出会いの中で認識する」という意味を含んだ言葉。転じて「性的に交わる」という意味にも用いられる。カイン（ヘカーナー）は、「わたしは…得る」いう意味。カインの名はここから由来したという考え方が一般的。

2 アベル（ヘベル） 息、蒸気、あるいは象徴的に、むなしさ、はかなさをさす言葉。アベルは羊を飼う者となり、カインは土を耕す者となった この両者は牧羊（牧畜）と農業という文化的対立を読み込む考え方もあるが、むしろこの両者は補い合う役割を担つたのである。しかしある資料によれば季節移動のため簡素な生活を強いられる牧畜業に比べて、定住生活へと発展し富を得るようになつた農耕民族が、牧畜を蔑視する傾向性を持つようになったとする見方もある。

3 日がたつて ある期間を経過して。あるいは「しばらくしてからのことである」というような意味。どのくらいの時間が経過したのかは不明。カインは地の産物を持つてきて、主に供え物とした 「最善のもの」でも「最悪のもの」でもない。ごく普通のあり当たりの産物なのである。

4 アベルもまた、その群れのういこと肥えたものと持つてきた 「ういご」をささげた。一般に、初子は最も大切に育てられる傾向があるといわれる。その人にとって最も大切なものの、という意味を含んでいるのであろう。肥えたもの 脂身（新共同訳）、最も大切な部分。

ここに、カインとアベルの供え物の相違が明確にされる。まず、供える側の供え方の相違である。カインは、手近な作物を人づてに届けさせたと読むことができる文章である（3）。いわゆる「おさなり」と表現のできる供え方である。一方アベルは、最高の供え物をしたのである。その供え物をする者の心根が大きく異なつていたようである。また、アベルの供え物が「羊」であり、血が流される供え物であったのに対し、カインの供え物は血とは無縁であった。このことから、アベルの供え物には、身代わりの死、血による贖いを願う心が込められていたのにに対して、カインのそれには、それほどの罪惡に対する意識も贖いへの思

6月

5日 研究資料

いもなかつたのであろう。もちろんこの理解には読み込みすぎとの批判もあるが、創世記3・21「皮の衣」を「贖いの死」の「血の犠牲」という考えに立つならば、支持すべき立場でもあろう。

一方でこの箇所を神の側に立つて理解するならば、「アベルとその供え物」とあるように、神はまずははじめにアベルという「人間」に目をとめられたということである。主は供え物ではなく、供える人間の心を一覧になるのである（サム上¹⁶・7、ルカ¹⁸・10～14、21・1～4等）。ヘル書の記者はそれを「信仰」と呼んだ（ヘブル¹¹・4）。これらのことの結果、主はアベルとその供え物とを顧みられたのである。

5 しかしながらとその供え物とは顧みられなかつたので、

カインは大いに憤つて、顔を伏せた

どうしてこのことが分かつたのかは不明。「顔を伏せた」とは、落胆ではなく、怒りと憤りの結果の行為である。ねたみの感情は憤りとなつて表れる。実は、同じ思いはヨブにもあつた。しかし、ヨブは神に向かつて顔を上げ、自らが納得するまで神に問い合わせた。一方カインは顔を伏せた。

6 神がこの節で「なぜ」と繰り返し問われたのは、カインの理性に訴えるためである。神は、罪人に関心を持つて

おられるのである。同時に神は、カインの外に向かられた怒りの目を自らの内に向かせ、悔い改めへと導こうとしたのである。

7 顔をあげたら 本文には「顔」という言葉がない。直訳すると「上げること」。6節の「顔を伏せる」とのつながりでこのように訳したのであろう。しかし、一般的な態度の問題として考へるならば「まっすぐに立つ」という訳も可能である。**罪が門口に待ち伏せています** 主語が「罪」であることから、「心の戸口」という意味で用いられるとして考えられる。**あなたはそれを治めなければなりません** 衝動を抑えることを求める神のあわれみの言葉。ある訳では「支配することができます」と、神が人間の可能性を信じていることを強調する訳し方をしている。

8 7節の、神の言葉に対するカインの回答は記されていない。しかし、カインはこの行動をもつて神への回答とした。**さあ、野原へ行こう** 七十人訳聖書による補足。新共同訳や文語訳ではこの言葉は訳していない。この言葉にカインの暴力の計画性を指摘する学者もいる。**野原へ** 人の見ていないところ、という解釈がある。

参考図書 加藤常昭編『説教默想集成1』（教文館）他、
6／26の参考図書も参照。

5日 札拝メッセージ例

聖書 創世記4・1～8
タイトル 神に喜ばれるささげ物はどつち?
暗唱聖句 信仰によつて、アベルはカインよりもまさつたいけにえを神にささげた。

導入 ヘブル11・4
目標 神様に喜ばれるささげ物をする者となる。

(松浦み)

皆さんには兄弟がいますか? けんかをしないで仲良くしていませんか? 「いじわるなお兄ちゃんなんかいなくなればいいのに」なんて心に思つたことはありませんか? 聖書には、「兄弟はなやみの時のため生れる」(箴言17・17)、「助け合う兄弟は堅固な城のようだ」(箴言18・19)と、兄弟のいる意味が書かれていますよ。でも、そんな兄弟は、少ないですねえ。いがみあつたり、けんかしてしまいます。皆さんはどうでしようか。今日学ぶ聖書の中に出でてくる二人の兄弟は、どうだつたのでしょうか。

兄と弟のささげもの

神様が造られた最初の人、アダムとエバの家庭に二人の

男の子が生まれました。お兄さんはカイン、弟はアベルという名前です。一人はすくすく成長し、兄のカインは、土を耕し作物を作る人になりました。弟アベルは、羊飼いになりました。

ある日のことです。「一人はそれぞれの仕事の中から、神様への感謝のささげ物をしました。カインは「うん、たくさんできただぞ。これと、あれと、あつ、それも!」という具合に、収穫した作物を持ってきて主にささげ物をしました。一方、アベルは羊飼いでしたので「うーん、神様はいつたい何を喜んでくださるかな」と一生懸命考えました。「うん、そうだ! 羊の中から、一番かわいい赤ちゃん羊をおささげしよう」と考えて、主にささげました。

二人のささげ物の違いは?

カインとアベルは同じようにささげ物をしたのに、神様はアベルとそのささげ物を大変喜ばれました。しかし残念なことに、カインのささげ物には目を留められませんでした。どうして? と思いますね。神様はえこひいきなさる方でしようか。いいえ、そんな方ではありません。カインもアベルも、ここにいるみんなも愛しておられます。では、なぜでしようか。神様は人の心をはかられるお方だからで

6月

5日 札拝メッセージ例

「弟のくせに、アベルのやつ、なんて生意氣なんだ！」

アベルを殺すカイン

カインの心には、神様に喜ばれない何かがあつたのでしょうか。カインに向かつて神様は「あなたは正しいことをしていらない」と指摘しておられます。カインは、神様がお喜びになることは何だろうと考えるのではなく、自分が正しいと思うことをしたのです。きっとカインは立派にできた作物を選んできさげたことでしょう。ですから、自分

のささげ物は当然、神様に受け入れられるものだと思っていました。しかし、そうではない結果になつた時、神様に対しても怒つて顔を伏せたのです。それだけではなく、カインの心の奥底から燃え上がつた怒りの火は、弟アベルに対するねたみとなつたのです。

カインの心には、神様に喜ばれない何かがあつたのでしょうか。カインに向かつて神様は「あなたは正しいことをしていらない」と指摘しておられます。カインは、神様がお喜びになることは何だろうと考えるのではなく、自分が正しいと思うことをしたのです。きっとカインは立派にできた作物を選んできさげたことでしょう。ですから、自分

のささげ物は当然、神様に受け入れられるものだと思っていました。しかし、そうではない結果になつた時、神様に対しても怒つて顔を伏せたのです。それだけではなく、カインの心の奥底から燃え上がつた怒りの火は、弟アベルに対するねたみとなつたのです。

私たちがささげ物をする時、神様はささげた物を見るのでなく、ささげた人の心を見られるということがわかりますね。神様は、どのような心でいるかを大切になさいます。献金をする時、心からの感謝をもつてささげる者となりましょう。

♪主よ、ささげます♪（讃美歌21 512）



聖書 使徒行伝 1・3～8
テーマ 聖靈の恵みを求める

序論

使徒行伝は、単に使徒たちの活動を述べたものではありません。それは聖靈が、どのように主の弟子たちを導いて、福音がユダヤ人社会から、異邦人社会に宣教されて行ったかを記した聖靈行伝です。この箇所には聖靈に関する命令と約束が記されています。

一、キリストの苦難と復活

まずルカは、イエスの死後どのようなことが起こったかを述べています。それは、イエスは苦難を受けたのち、自分が復活して生きていることを示し、弟子たちにたびたび現れて、神の国のこと語られた、という出来事です(3)。すなわち、イエスは、私たちのために十字架上で死なれ、人間の罪の結果である死を克服して、よみがえられたのです。それは、弟子たちの目前で起こった出来事でした。復活されたイエスは、たびたび弟子たちに現れて、彼らが心中で疑つたりする余地がないようにされたのです(1コ

二、父の約束を待つて

（食事を共にしているとき）のことです。イエスは〈かねてわたしから聞いていた父の約束を待つていてるがよい〉と命じられました。さらに〈ヨハネは水でバプテスマを授けたが、あなたがたは間もなく聖靈によって、バプテスマを授けられるであろう〉（参考マルコ1・8）と約束されました。

この約束の言葉は、弟子たちに向かつてなされたものです。待つというのは、ある時がくるまで何もせずに待つことです。ですが、そのような期間が弟子たちには必要でした。な

りント15・5以下）。ですから、弟子たちは正真正銘、復活の出来事の目撃者にほかならないのです。

（福井）

6月

12日 聖書講解

せなら、弟子たちは自らの無能無力を知り、聖靈の力なしには宣教できないことを徹底的に知り、聖靈に満たされる必要があつたからです。

この時まで、弟子たちの靈的状態はどうだつたでしょうか。彼らのうちの二人は地位のことで争つていました。また、サマリヤ地方に出かけた時、歓迎してくれなかつたことに腹を立て「彼らを焼き払つてしまふように、天から火をよび求めましようか」（ルカ9・54）と言いました。ペテロは主イエスを三回も「知らない」と拒みました。弟子たちは皆、主の復活されたとき、あまりの恐ろしさに震え、戸を閉めて鍵をかけて隠れていきました。

弟子たちは自らの無能無力を知られ、互いに悔い改め、約束を待つたのです。

三、聖靈を受け、主の証人となる

主から約束を待つように言われた弟子たちでした。しかし、弟子たちは「今」お会いしているこのイエスが、イスラエルを復興されるのではないか、と期待していました（6）。そこでイエスは弟子たちの質問には直接お答えにならず、二つのことをお答えになりました。一つは、時期や場合は、

神が定められていること（7）。二つには「ただ、聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、…さらに地のはてまで、わたしの証人となるであろう」ということです。
 ①この8節は偉大な約束です。〈聖靈があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受け〉ると、言われました。聖靈は神の賜物として受けるのです。

②聖靈は偉大な力です。この「力」はギリシャ語で「デュナミス」で、いと高い所から来る力です。その力の源泉は聖靈なる神ご自身です。
 ③聖靈はご人格を持つた「お方」です。聖靈は私たちが罪に勝利できるようにし、清い生活を送らせ、愛のわざをさせ、私たちをイエスに似た者にしてくださいます。
 ④聖靈を受ける時、私たちは生活を通してキリストを証しし、福音を大胆に語る証人となるのです。

結論

私たちがイエスの証人になるため、必要なことは、自らの無能無力を知り、聖靈を受け、聖靈に満たされることです。この聖靈は求める者に、従う者に与えられるのですが、信仰によつて受けるのです（ガラテヤ3・14）。

12日 研究資料

研究資料

(宮澤)

この聖書箇所は、聖霊の約束と主の昇天が記されている箇所である。ルカによる福音書の続編ともいわれる使徒行伝の序論としての位置づけをも併せ持つ。この箇所を取り扱うに当たっては、ルカ24・36以下のイエスの顯現の記事にも目を通し、イエスが弟子たちに現れた様子や昇天の出来事をもふまえた上で語ることが必要である。ただ、本日の中心聖句にあるように、あくまで中心は聖霊の降臨であるということをふまえて備えたい。

テキスト

3 この節は、内容的には前節の挿入句としての役割をもつており、「お選びになつた使徒たち」を説明する役割を果たしている。イエスは十字架から昇天までの四十日の間に、しばしば弟子たちに自らを現され、イエスご自身が本当に死からよみがえられ、生きかえられたのであることをお示しになつた。具体的には福音書やパウロの書簡（特に最もよくまとめられている箇所はIコリント15章）に記されている。**神の国** イエスの教え（1）の中心は「神の国」に関する教言であつた。神の国とは、神の恵みが支配しているところ、という意味であり、イエスの生涯

と十字架と復活を通して神の国が到来したこと、そしてイエスの再臨によって神の国が成就することを福音書は証しするのである。

4 イエスは、前節にあるように、自らが確かによみがえられたことを弟子たちに示すため、しばしば食事を共にされた（ルカ24・41～43、使徒10・41）。**エルサレムから離れないで** 弟子たちは、この時ガリラヤに戻ることを考えていたのかも知れない（ヨハネ21章にはそのことが示唆されている）が、イエスがユダヤ人に拒絶されたその場所で、弟子たちが聖霊による新たな第一歩を踏み出すことが神の御旨だったのである。

5 この約束は、バプテスマのヨハネによつて予め示されている（マルコ1・8）。そしてイエスは、ヨハネのこの言葉が成就する時がいよいよ近づいた、と語るのである。旧約聖書の預言によれば、成就の日のしるしとして、神の靈がすべての人に注がれるであろう（ヨエル2・28、29）とある。ヨハネの水によるバプテスマは、悔い改めを迫ると共に、悔い改めた民をやがて來るべき審判に對して備えさせ、預言者たちが語つた靈のバプテスマをも予め指示したものであつた。

6 **さて** 新しい物語の始まりに当たつて、使徒行伝にお

6月

12日 研究資料

いて用いられてゐる書き出しの言葉。主よ、イエス・エルのために國を復興なさるはせ、この語なのぢやか　ハレド弟子たちがいう「國」とは神の國のことであつて、弟子たちは旧約聖書の教えを文字どおりにとつて、神の國がイスラエル民族の独立によつて実現成就されるという考え方から抜け出すことはできなかつた。この問いは、福音書においても何回か問われている問い合わせであつて（ルカ19・11、24・21）、ルカはここにきてはじめてこの問い合わせを直接イエスにぶつけた。

7 前節の弟子たちの質問に対し、主イエスは直接にはお答えにならない。時期（ギ）クロノス）や場所（ギ）カイロス）クロノスは、時間の経過を表す言葉であり、カイロスは、定められた時点を表す言葉である。特に、この箇所のカイロスは、時間を支配するのが神であることを明白に示した言葉であり、この二つの言葉が重なつて用いられていることは、終末に至る期間を指していると考えられる（I テサロニケ5・1）。

8 イエスは、かつて、弟子たちが考えていた政治力ではなく、それよりはるかに偉大な力が注がれるといふのである。聖靈が彼らの上にくだる時に、力をいただくと語つたのである。その約束の聖靈は、旧約の時代から預言された

ていたもので（ヨエル2・28～29他）、バプテスマのヨハネによつてその到来を告げ知らされていた（マタイ3・11他）。力（ギ）デュナミス）この「力」とは、単に証言する熱心さや迫力のことではなく、使徒たちが、特別に神から遣わされた者であり、主イエスがともに働いておられることの証拠としての「力あるわざ」（使徒2・22）のことである。また、この言葉は英語のダイナマイトの語源となつた言葉であり、聖靈が与える力はダイナマイトのような大きな力であり、あらゆるもの粉碎し、碎く力がある。エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、世界の地の上で使徒行伝は、エルサレム（2～7章）、ユダヤとサマリヤの全土（8～9章）、地の果てまで（10～28章）といふように、使徒行伝においては使徒たちが証人として派遣される範囲をも前もつて明確に示している。証人　ルカは、この言葉を「目撃者」以上の言葉として用いている。「わたしの証人」とは、ルカ24・46～48にあるように、キリストの苦難と復活と宣教されるべき赦しの福音の「証人」ということである。そのため聖靈による力が必要なのである。

参考図書　A.T.Robertson "Word Pictures in the New Testament III," (BROADMAN)、F.E.ブルース『使徒行伝』(聖書図書刊行会) 他

12日 札拝メッセージ例

聖書	使徒行伝1・3～8
タイトル	あなたを力づける聖靈(ペントコスティ)
暗唱聖句	ただ、聖靈があなたがたにくだる時 あなたがたは力を受けて、…わたしの 証人となるであろう。使徒行伝1・8
目標	聖靈に満たされることの必要を知り、 聖靈の恵みを求める。

導入

(松浦み)

皆さんは毎日、やる気満々の気持ちで生活していますか？ または、いろんなことに疲れを覚えて、「僕は何をしてもだめだなあ」とため息をつくことがありますか？ 部活動も自分なりにがんばっているけど、今ひとつ成果があがらないし…忘れ物や遅刻、失敗も多くて、先生や家人にしかられるし…、面白くない気持ちで毎日を過ごすというようなことはありませんか？ こんな性格や生活が変えられて、喜びと自信にあふれた歩みができるならどんなに良いでしょう。この事が現実となる素晴らしいことが、今から二千年前、エルサレムの町で起こったのです。いつたい何が起きたのでしょうか。

復活の確かな証拠

イエス様が十字架で亡くなり三日目に復活された後、なさったことは何でしよう。復活されたイエス様は、四十日間、何度も弟子たちにあらわされて、「私は、死からよみがえったよ」と多くの人に知らせました。また、神の国のこと語られました。そして四十日目に、大勢の人が見ていました。前で、天にお帰りになられました。

父の約束を待つ

イエス様と一緒に食事をしているときのことです。「エルサレムから離れないで、かねてわたしから聞いていた父の約束を待っているがよい」と命じられました。どんな約束でしようか？ 「あなたがたは、間もなく聖靈によって、バプテスマを受けられるでしょう」という約束でした。

この約束は、弟子たちに向かつてなされました。弟子たちには待つことが必要でした。弟子たちは自分たちの中で誰が一番偉いか、と地位のことで争つたり、十字架につけられようとするイエス様を否んだりしていました。しかも主が復活された時は、あまりの恐ろしさに部屋に鍵をかけ隠っていました。聖靈を待つうちに、弟子たちは互いに悔い改め、自分たちがどんなに弱いものかを知らされて、イエス様がいらっしゃなければ生きていけない

6月

12日 札撰メッセージ例

い者であることが分かつてきたのです。

上よりの力

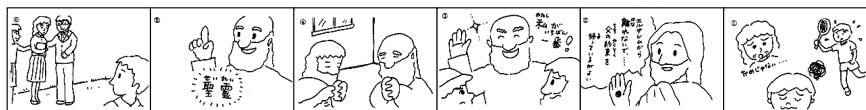
わたしはやがて天に帰つていぐが、「ただ、聖靈があるがたにくだる時、あなたがたは力を受けて、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、さらに地のはてまで、わたしが証人となるであろう」と約束されました。聖靈は、第三位格の神ご自身であり、神様からの賜物です。また、偉大な力もあります。この力は、ダイナマイトのような力であると言われます。ダイナマイトは、どんな固い岩や山でも粉々に碎いてしまいます。そのように、聖靈の力は働いて、まるでダイナマイトのように弟子たちを碎いて、全く新しく造り変えてしまうのです。弟子たちは、イエス様と寝食を共にしましたが、その心中には、少しも変わっていませんでした。しかし聖靈が、その心の奥底からきよめ、いつでも、どこでも、喜んでイエス様のために命を捨てるのに造り変えてくださいました。イエス様の証人となるためには、どうしても聖靈に満たされることが必要ですね。

聖靈によつて変えられた人の証

みち子さんは、神学校に導かれて入学したものの路傍伝

道が嫌いでした。人前で、しかも道行く人々の心をとらえる証なんて恥ずかしくて語ることができません。ある人々のように、劇的な入信の経験がないのですから。生まれる前から教会に行つていたこともあります。強く語ることができません。ある日、自分に失望して、強く語ることができません。ある日、自分に失望して、神学校を辞めてしまいたいと思い、部屋に閉じこもっていました。「イエス様、私にはあなたの良き証人になる力はありません。こんな役立たずの者が、神学校にいていいのでしょうか。さつさと辞めるべきでしょうか」祈りにもならない訴えをしていました。その時、聖靈がみ声をかけてくださいました。「もし人がわたしにつながつており、またわたしがその人とつながつておれば、その人は実を豊かに結ぶようになる。わたしから離れては、あなたは何一つできないからである」(ヨハネ15・5)と、ありのままのみち子さんを覆い包んで、立ち上がりさせてくださいました。その日以来、主は真実の限りをつくして支え続け、奉仕の場で用いてくださっています。あなたも聖靈を求めてください。ゆるがない信仰生活を送ることができるでしょう。

♪主に従い行くは♪(教会学校聖歌 82)



聖書 マタイ5・43～48
テーマ 天の父の愛

序論

(福井)

この箇所は、山上の説教の5章17～20節の解説（適用）として、イエスが旧約の律法の中から引き出された六つの問題の最後です。その最後に、隣人愛を取り上げておられることは、決して無意味なことではありません。律法は、結局愛に尽きるからです。

一、敵を愛せよ

当時、律法学者やパリサイ人は、「隣り人を愛し、敵を憎め」と教えていました。律法には「あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならない」（レビ19・18）とありますが、どこにも「自分の敵を憎め」という律法はないのです。

むしろ、「もし、あなたが敵の牛または、ろばの迷ついるのに会う時は、必ずこれを彼の所に連れて行つて、帰さなければならぬ」（出エジプト23・4～5）との規定がありました。ところが、律法学者やパリサイ人たちは、

「隣人」を自分と同国人、つまり神の選民であるユダヤ人に限定したのです。そして、ユダヤ人を愛し、異邦人は憎んでもよいと教えたのです。

しかし、イエスの「隣人」についての理解は全く違っていました。あの「よきサマリヤ人」のたとえ話によつてもよくわかります。隣人とは人種差別を一切廃したすべての人であり、敵意とか好意を持つていてことによつて区別されないすべての人なのです。そのイエスが「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と教えられました。主が敵の中から特に「迫害者」を区別しておられるのは、他のどんな理由からの反対よりも、信仰のゆえになされる迫害が最も非情・苛酷だからです。

二、天の父の愛

イエスは（こうして、天にいますあなたがたの父の子となるためである）と言われました。私たちの敵をゆるし、迫害者のために祈ることによって、私たちが神の子とされるではありません。私たちは神の恵みとイエスへの信仰によって救われ、新しく生まれ変わり、神の子とされたのです。神の子は、愛なる天の父なる神に似るはずです。それゆ

6月

19日 聖書講解

えに、私たちが敵を愛する時、私たちはその愛の父にふさわしい者となれるのです。さらに、イエスは「天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ、正しい者にも、正しくない者にも、雨を降らして下さるからである」と言されました。父なる神は善人と悪人を区別できないようなお方ではありません。悪い者と良い者を区別なさつた上で、公平にすべての人を取り扱っておられます。ここに神の公平が神の義と愛に基づいていることを知るのです。イエスは、自分を十字架につけた人々を前に、「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにはいるのです」（ルカ23・34）と祈られました。ここに敵をゆるし、迫害する者のために祈られたイエスの愛を見ることができます。主は私たち罪人のために十字架上で死んでくださったのであり、それはイエスをこの地上に遭わしてくださった神の愛なのです（ローマ5・8）。

三、人を愛する者

イエスは「あなたがたが自分を愛する者を愛したからとて、なんの報いがあるうか。そのようなことは取税人でもするではないか」と言されました。これは、どんなモラルの

欠けた人でも自分を愛してくれる人を愛することはできるのだ、ということです。しかし、私たちは隣人を愛することはなかなかできません。また、他人に害悪を与えると黙っていられず、復讐しようという気持ちが湧いてきます。その私たちに対しても、イエスは「それだから、あなたがたの父が完全であられるように、あなたがたも完全な者となりなさい」と語られました。この完全は、知恵や力の完全でなく、愛における完全、全き愛のことです。この完全をきよめ（聖潔）と言います。「敵を愛し、迫害する者のために祈れるのは神の愛によるのであり、キリストの心によるのであって、聖霊によって神の愛が心に注がれて初めてできることです（ローマ5・5）。そして愛の領域で完全になるとは、混じりけのない、不平等や不公平のない、透明純粹な愛をもって生活し行動することができるようになります。

結論

神と交わり、イエスの血によつてきよめられ（ヨハネ1・7）、聖霊によつて神の愛を注がれ、愛が全うできる者を目指しましょう。

19日 研究資料

研究資料

(宮澤)

この箇所は「山上の説教」の中の一節であり、マタイによる福音書におけるイエスの五大説教の一つである。また、この「山上の説教」は、別名「神の国の大憲章」ともいわれ、「天の御国」についてのイエスの倫理が示されている。さて、山上の説教の前提であるが、1節に「イエスはこの群衆を見て、山に登り、座につかれると、弟子たちがみもとに近寄ってきた」とある。座に着くとは、座る、という意味であつて、通常ユダヤ教のラビたちは、聖書の朗読の際には立ち、教える際には座つて教えたとされる。すなわちこの「座に着く」とは、単なる行為としてのそれではなく、イエスの教師として、あるいは神の権威者としての地位をその群衆に示したという意味において、重要な言葉なのである。同時にこの山上の説教の聴衆であるが、「弟子たちがみもとに近寄ってきた」と、直接的には弟子たちに對して語られている。しかし、まわりには群衆がいたこと、そして山上の説教の結末として「イエスがこれらの人々を語り終えられると、群衆はその教にひどく驚いた」(7・28)とあることから、イエスは群衆に対しても同時に語っていたのであろう、と想

測できる。特に5章17節からは、律法の中の、特に六つの伝承をイエスがどのように理解したか、ということについて書かれている。今回のテキストはその箇所の一つである。

テキスト

43 『隣り人を愛し、敵を憎め』

前半部分の「隣人を愛し」という言葉については、レビ19・18において言及されている。この戒めは、主イエスによつて、神に対する愛の戒めと共に最も重要な戒めとされている(22・34以下)。しかし、後半部分の「敵を憎め」という記述は、聖書をはじめ、ユダヤ教文献のどこにも見いだされてはいない。しかし、ユダヤ人たちに「敵を憎めとあなたがたは聞いています」と言つたイエスの言葉に對して、群衆や弟子たちは反論していない。また、当時のユダヤ人社会の教えや文献からして「隣人」とは、同胞であるユダヤ人だけを指すと解釈し、他のあらゆる民族を、異邦人であり敵であると思え、と解釈できるようである。

44 イエスがその御国の民に命じられた言葉である。敵直訳は「あなたがたの敵」であるが、「あなた方から見ての敵」という意味より、「あなた方を敵と見る人々」という意味であろう。御国の民には「敵」はない。いるのは

6月

19日 研究資料

自分たちを敵と見なす人々である。愛し 感情的なものであるというよりは、むしろ強い意志を伴つたものである。**迫害する者のために祈れ** いに用いられている一つの動詞は現在形で書かれている。いには一般論としての命令ではなく、具体的な人々を想定して語っているようである。

45 いにして この接続の言葉と前節からのつながりによれば、敵への愛や迫害者に対する祈りの結果、神の子とされるかのような誤解を抱く恐れもある。しかし、そうではない。むしろ、この「こうして」とは結果を表し、神の子とされた者は、その結果、そのしとして敵への愛や迫害者に対する祈りへと導かれる、ところである。天の父は、悪い者の上にや良い者の上にも、太陽をのせひせ、正しい者にも正しくない者にも、畳を踏みしめて下せぬからである。人間にに対する神の働きは、人間によって条件づけられるのではない。しかし、いのことはユダヤ人たちには信じがたいことであった。なぜなら、契約の民であるユダヤ人は、神から特別扱いされていると信じていたからである。それは同時に、因果応報という考え方を根底に持つ日本人と日本人クリスチヤンに対するメッセージでもある。

46 いに「取税人」と「異邦人」とが道徳的に一段

低い存在として例示されている。これは、もちろんイエス自身が彼らを軽蔑したというのではなく、当時のユダヤ人の間における常識的な見解を採用したのであろう。あいわい 単に挨拶を交わすこのではなく、挨拶をする相手に神からの祝福を祈る祈りが含まれる。

48 この箇所は、第一義的には今回取り上げた43節以降の結論部分と言えることができる。しかし、それ以上にこの箇所は21節以降の締めくくりのみ言葉として読むことができる。その鍵となる言葉は「完全」という言葉である。ちなみにこの言葉は、並行記事のルカ6・36では「慈悲深い」と訳されている。しかし、マタイがこいでいう「完全」とは、「マタイの文脈から理解すると、人を差別する」となく愛する、という意味に解することができる。この箇所は、「愛」の対象としての「隣人」を定義づけているのである。その隣人に對して45節にあるように、公平に愛を注ぐという意味での「完全」を意味しているのである。なぜならば、それは「天の父」がそうであるからである。

参考図書 A.T.Roberts on "Word Pictures in the New Testament I," (BROADMAN) 中澤啓介『マタイの福音書註解(上)』(恵友書房) 他

19日 札拝メッセージ例

聖書	マタイ5・43～48
タイトル	天のお父様はどんな方？（父の日）
暗唱聖句	天の父は、悪い者の上にも良い者の上にも、太陽をのぼらせ
目標	マタイ5・45 天の父なる神様の愛を知り、どんな人をも愛する者となる。

導入

（松浦み）

今日は「父の日」ですが、あなたのお父さんはどんな方ですか？中にはお父さんがいない人もいるかもしれませんね。二歳の時、お父さんが病気でなくなつた男の子を知っています。その子は、お父さんの顔もその肌の温もりも何にも覚えていません。おばあさん、お母さん、お姉さんと女三人の中で育ちました。大きくなつた時、ふと、お姉さんの日記を引き出しの中から見つけたので、そおつと盗み見をしました。その中に「お父さま、お父さま」という文章があり、びっくりしてしまいました。「僕の家には、お父さんはいないのに。お姉ちゃんはどうしてこんなことを書いているのだろう？」不思議でたまりませんでした。怒られることを覚悟で、恐る恐る聞いてみると、「私ね。

教会に行っているんよ。お父さまってね、天の神様のことよ」と教えてくれました。お姉さんはやがて教会で結婚式をあげました。後、その男の子は天のお父さまの愛と恵みを知つて、父のいないさびしい人生から解放され、すばらしい天の父の愛を伝える牧師になつたのです。

天のお父さまってどんな方？

聖書には、悪い者の上にも良い者の上にも太陽をのぼらせる方、正しい者にも正しくない者にも雨を降らしてくれる方、と書かれています。ですから、天のお父様は、悪い者にも良い者にも公平に恵みをくださる方であることがわかります。さらに、敵対する者をも愛する完全な方だと言われています。しかし、もつとはつきりと天のお父様を知ることはできるでしょうか？できます！それはひとり子のイエス様を通して、です。「神を見た者はまだひとりもない。ただ父のふところにいるひとり子なる神だけが、神をあらわしたのである」（ヨハネ1・18）。そして、そのひとり子はめぐみとまことに満ちていたと言われているので、天のお父様もそのようなお方なのです。

ひとり子イエス様に注目しよう！

天のお父様である神様をあらわすために、天から遣わさ

6月

19日 札拝メッセージ例

れたイエス様に注目しましょう。イエス様は、目に見えるない神様を見る形であらわすために、その生涯のすべてをもつて完全に神に従われました。イエス様を見るとき、天のお父様がどんなにめぐみとまことに満ちた方かをその行動、ことば、生活のすべてをもつて知ることができるのです。

①馬小屋で生まれたイエス様は、どんな人でも近づくことができる神様の愛のあらわれです。②貧しい大工の家で育つたイエス様の服は、継ぎはぎだらけの服だつたのでしょうか。破れた服を繕うのに、「新しい布をあてれば、古い布が破れてしまうよ」と人々に教えられました。貧しさからくる生活の苦しさや悩みも十分経験し、人の痛みや悲しみがわかる人でした。ですから、天のお父様はどんな悩みや痛みにも理解を示して慰めてくださるやさしい方です。③孤独な人、病気苦しむ人に寄り添つて、食するヒマも、枕する所もないほど働かれました。天のお父様は、どんな些細なことにも目を留め、助けと支えをくださる方です。④最後には十字架にかけられ殺されましたが、自分を十字架につけた人々を前に「父よ、彼らをおゆるしください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです」

と祈られました。世の罪を取り除く神の小羊として十字架上で贖いの供え物となつてくださいました。ここに天のお父様の大きな大きな愛があらわされています。

父の子となるために

私たちが天のお父様の子となるためには、「敵を愛し、迫害する者のために祈れ」と命じられています。人間の持つている愛はギブ・アンド・テイクの条件付きの愛です。自分に対し良くしてくれる人、愛してくれる人は愛することができますが、自分を苦しめたり、いじめたりする人を愛することはできません。かえつて、仕返しをしたり、無視する気持ちが湧いてきます。しかし天のお父様が完全であられるように、完全な者になりなさいと、勧められています。どんなに努力してもできないことです。しかし聖霊によつて、私たちに神の愛が注がれる時、そのことは可能になると約束されています。

なんと嬉しいことでしょう。罪深い私たちに注がれる天の父なる神様の愛を素直に受け取り、天のお父様に似る者にならせていただきましょう。

♪十字架の上の♪（日基こどもさんびか37）



6月

26日

聖書講解

聖書 創世記6・9～22

テーマ 全き人ノア

序論

創世記6章から9章には、「ノアの洪水」として知られています。出来事が記されています。ノアの洪水が起こった理由は、人類の罪による墮落でした。そのことは6章1節から8節に述べられています。結婚は乱れ、人の悪、つまり乱暴や危害がますます増大して行く中で、「主の前に恵みを得た」(8)のがノアです。

(福井)

ノクのように〈神とともに歩んだ〉のです。ノアは動機においても、良心においても正しくあります。また、神への信頼と忠実さにおいて主に喜ばれる人ではあります。これは少数者にとつては、決して容易なことではありませんでした。しかも、ノアが、〈正しく、かつ全き人〉であったとは、自分の弱さを知つていて、神にすがり、神に頼つて生活したことです。神はそのようなノアを通して、人類の救いの計画を進められたのです。主がそのご計画のために用いようとする人は、決して完全無欠の人ではありません。

一、ノアの系図

第三の系図、すなわちノアの系図から始まっています。ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人であつた。〈正しく、かつ全き人〉というのは、ノアが神の前に完全無欠な人間であったということではありません。(その時代の人々の中)と比較されています。当時の人々は、未信者だけでなく「神の子」(2)と呼ばれている人々さえ、神に背き、罪が増大していた時代でした。ノアはそのような時代思潮に流されることなく、染まることなく、工

二、ノアの洪水とノアの箱舟

〈神の前に乱れて、暴虐が地に満ちた〉とあります。ノアの時代の人々はますます墮落し、滅亡に向かつて突き進んで行きました。そこで、神はノアに告げられました。〈わたしは、すべての人を絶やそうと決心した。彼らは地を暴虐で満たしたから、わたしは彼らを地とともに滅ぼそう〉と。神はノアとその家族を除いて、全部を地上から亡ぼし去つてしまおうとされたのです。

しかし、神はノアとその家族を救い出すために、ノアに

6月

26日 聖書講解

箱舟の建造を命じられます。〈あなたは、いとすきの木で箱舟を造り、箱舟の中にへやを設け、アスファルトでそのうちそとを塗りなさい〉と。①この建造は、神の発案によるものです。すなわち救いの計画は、まず神によつて立てられたのです。②箱舟の設計も神によるものであります。その設計は具体的であり、詳細にわたっています（15～16）。

神がノアに命じられた箱舟は、神の言葉のとおり直方体でした。大きさ、長さが三百キュビト（約百四十メートル）、幅が五十キュビト（約二十三メートル）、高さが三十キュビト（約十四メートル）、現代の船にすれば一万五千トン級のものであったと思われます。積載を目的とした舟としては理想的で、バランスのある、出入り口や採光のための工夫もされたものでした。

三、信仰の従順

ノアは、神から箱舟を造るように命じられましたが、なぜ箱舟が必要なのかは聞かされていませんでした。箱舟を必要とする理由を知ったのは「洪水」（17）の予告をされた時です。彼は神のみこころを知らなかつたのですが、神

のご計画があることを信じて従つたのです。

また、神はノアのゆえに、ノアだけでなく彼の家族をもう救い出そうとして、〈あなたは子らと、妻と、子らの妻たちと共に箱舟にはいりなさい〉と命令されました。箱舟を造るためにには家族の協力が必要ですが、何より家族の救いのためにノアは神の言葉を信じて、神のみこころ（救い）を家族に伝えたのです（使徒16・31）。

神はノアとその家族を救うために、ノアと〈契約〉を結ばれました。これは聖書の中で、最初に契約という言葉が出て来る箇所です。契約とは、神がその約束を確かなものとするために、御自身にかけて約束されることです（ヘブル6・13～14）。

彼の生きた時代は不信と墮落と悪が満ちていきました。しかし、〈ノアはすべて神の命じられたようにした〉とあります。ノアは神のみ言葉に聴き従う信仰に生きたのです。

結論

ノアは不信と墮落した世に流されず、神を信じ、条件をつけず従い、信仰による義を相続する者となつたのです（ヘブル11・7）。

26日 研究資料

研究資料

(宮澤)

創世記の鍵となる言葉の一つは「系図」という言葉である。「これはこの系図である」という言葉によって、創世記は新しい扉を開く。この箇所はノアという人物の生涯の出来事を物語る。本日の聖書の箇所は創世記6・9からであるが、実は8節からこの物語の萌芽を見る。主はこのノアを通して、人類の救いのご計画を進められるのである。この聖書箇所を語るに当たっては、8節までの当時の時代状況をもふまえた上で語りたい。

テキスト

9 正しく 人として神の基準にかなつた、という意味。おもに対しての「正しさ」をさして用いられる言葉である。**全き** 完全な、健全な、という意味。おもに神に対する完全さをさす。罪のない完全ではない。**ノアは神とともに歩んだ** この表現が用いられているのは、ノアと工ノクだけである(5・24)。

11 神の前に 神の目に。乱れて 墮落し(新改訳・新共同訳、他)。本文中では、この言葉は特に強調されている。墮落の程度がうかがえる。またノア物語中では、この

言葉は七回用いられており、この節と12節aでは「腐敗、墮落」といった意味に、そしてそれ以外では「滅ぼす」という意味で用いられている。

13 わたしは、すべての人を絶やそうと決心した

原文を直訳すれば、新改訳聖書の訳文により近くなる。原文は完了形で記されており、神の預言の成就や神のこの行為を行う意志、決意の固いことを表している。終わりの時の到来の切迫感を感じさせる。

滅ぼそう ノア物語に何回か登場する「墮落」「暴虐」と同じ意味の言葉。この言葉を人間の行為として用いると「墮落する」という意味となり、それは同時に神の側の行為としての「滅ぼす」とことへつながる。

14 いとすぎの木

新改訳他の聖書では「ゴフエルの木」。詩篇104・17、エゼキエル27・5、31・8では「もみの木」と訳されている。マツ科の常緑樹で、建材として用いられていた。

アスファルト 「木のやに」(新改訳)、「タール」(新共同訳)。船の目地詰めの用途には広く用いられた。腕」という意味で、一キュビトは約45センチメートル。すると、この箱舟は、長さ約140メートル、幅約23メートル、高さ約14メートル。

6月

26日 研究資料

16 屋根 新改訳では「天窓」、新共同訳では「明かり取り」。構造上、頂上に取り付けられた。具体的にはよく分かつていいない。

戸口 もちろん第一義的には出入りのための戸であるが、神のあわれみによる救いへの入り口を象徴している。主は、囲いの中の羊の譬えの中で、出入り口としての戸（門）を強調された（ヨハネ10・1～6）。

17 箱舟の詳細について語った主は、いよいよその目的について語る。わたしは 主自身がこのことをなさるということを強調した言葉が用いられている。洪水 語源的には「天の上にある水」を意味し、神はその天上の大水を「天の窓」（7・11）から降らせ、雨として地上に降らせて洪水を起こすと考えられたのである。

18 契約 この箇所で、はじめて用いられている。契約の出発点にあるものは「救い」である。具体的な契約の内容は9章に明らかにされている。一般社会で用いられる契約とは、両者の対等な契約である。しかし、聖書のいう契約とは、神から人への一方的な契約であることを覚えていたい。また、この契約は神とノアとの間の契約であるが、その神はノアに家族とともに箱舟に入るよう命じた。神は、ノアの信仰によって、彼の家族も救いに与るよう^{あふ}に計画されたのである。

19 二つずつ たとえ15節のような大きさの箱舟でも、膨大な量の動物を収容するのには限界があった。また、

雄と雌 という言葉からも分かるように、すべての被造物の種の保存がこの目的である。ここで、7・2～3との相違から、様々な議論があるが、7・2～3の「七つがい」は犠牲のための動物であつて、種の保存とは異なる目的も併せ持つ。

20 あなたのところに入れて 「あなたのところに来なければならぬ」（新改訳等）。創世記7・9とあわせて読むと、動物たちはノアが集めたのではなく、自ら自発的に箱舟のノアのもとにやつてきたと考えられる。ここにも神の力が暗示されている。

22 この文章の原文は、「する」という動詞で挟まれた二つの文章からなっている。すなはち「行なつた」というノアの行動に重点が置かれているのである。ヘブル人への手紙の記者は、ノアのこの信仰のゆえに信仰者列伝の中にその名を加えた（ヘブル11・7）。しかも、このノアの行動は、すべて神の命じられたように とあるように、神への完全な従順であった。

参考図書 デレク・ギドナー『ティンデル聖書注解

世記』、小畑進『創世記講録』（以上いのちのことば社）

他 創

26日 札拝メッセージ例

聖書 創世記6・9～22
タイトル 神様と共に歩んだノア
暗唱聖句

ノアはその時代の人々の中で正しく、かつ全き人であった。創世記6・9
 世に流されず、神を信じ、従う者となる。

導入

(松浦み)

農作物にとって、雨はなくてならない大切なものですね。青々と稲が育っていますが、雨が降らないとよく育ちません。でも、雨が多すぎると大変です。大雨が降つて土砂崩れが起っこり、川が氾濫して大洪水になつたニュースを見たことがありますか？洪水は大切な家や命まで奪つてしまします。ある時、大洪水の中、あやうく助かった人がテレビのインタビューで「まるでノアの洪水のようだつた」と語つていたことがありました。今日はそのノアのお話をしましょ。

神様と共に歩んだノア

神様が最初に造られた人、アダムとエバの後に、地上にはたくさんの人間が増え広がりました。ところが、人

間は悪いことばかりしていました。うそをついたり、盗んだり、けんかをしたり、「自分さえよければいい」と自分で勝手に生きていました。神様のことを思い出すこともありますでした。天からその様子をご覧になつた神様は、あまりにも悪くなつてしまつた人間を見て、こんな決心をされました。「わたしが造つた人間を、この地からぬぐい去ろう。人も動物も空の鳥も」と。けれども、そのような時代の中でただ一人、神様を信じ、神様に従つている人がいました。その人の名は、「ノア」です。

ノアは、悪が満ちている時代の人々の中で、神様と共に歩み正しく全き人でした。ノアは周りの人々に流されず、いつも神様に従つて日々を過ごしていたのです。朝ごとに「神様、今日も私と私の家族を守つてください」、また、「神様、困った事があるのです。どうしたらよいのでしよう」と神様からの知恵と力をいただきながら過ごしました。夜には「神様、感謝します」と床に就きました。

神様に従つたノア

ある日のことです。神様がノアに語りかけられました。「わたしは、すべての人を絶やそうと決心した。この地上には悪いことが満ち溢あふれている。それで、すべての生き物

6月

26日 札拝メッセージ例

と一緒に彼らを滅ぼすことにした。あなたは、いとすきの木で箱舟を作りなさい。箱舟の中に部屋をつくり、アスフルトで内、外を塗りなさい」と。ノアはどんなに驚いたことでしょう。さらに神様の語りかけは続きます。「わたしは大洪水を起こして、すべてのものを滅ぼし去る。あなたは家族と共に、箱舟に入り、また、すべての動物の雄と雌を一匹ずつ、箱舟に乗せなさい。それと共に、箱舟で暮らせるように食物も積み込みなさい」と。

「えー、どうして?」「そんなもの造った事がありません。無理です!」などと、ノアはいつさい言い訳をしません。さつそくノアは、神様に命じられたとおりに箱舟を造り始めました。トントン、カンカン、ゴシゴシと木を切り、神様がおしゃつたとおりの形と大きさの舟を造りました。どんな大きさかつて?長さが300キュビット、幅は50キュビット、高さは30キュビットです。キュビットっていうのは大人のひじから指先までの長さ約45cmを表す単位です。さあ、メートルに計算してください。分かった人は? (手を上げて答えさせる) 長さ135m、幅22.5m、高さ13.5mです。ずいぶん大きな舟ですね。今のように便利な道具がない時代のことですからどんなに大変な仕事だったでしょう。舟の中の部屋をどうするか、扉をどこにつけるか、窓をどう

するか、何階建てにするかなど細かい造り方も全部、神様が教えてくださったとおりに造ったのです。人々は「ノアのじいさん、頭おかしくなったのかねえ」「こんな大きな舟造つてどうするの?」「大雨が降つて、大洪水になるんだってよ。バカバカしい話だね」と、あざ笑いました。

神様に守られたノア

コソコソと命じられたとおりに従うノア。神様はノアに「契約を結ぼう」とおっしゃいました。神様とノアの契約は、永遠不変のもので、神様からノアへの一方的な恵みの契約でした。神様はノアの信仰によって、ノアの家族全員も救おうと計画されたのです。すべてが滅ぼされるそのような中から、神様を信じて従うノアとその家族を守つてくださったのですね。

何とすばらしい神様の契約でしょう。今の時代のただ中で、いじめにあつて苦しんでいる人や家庭内の問題で悩んでいる人がいるでしょう。しかし、「あなたはわたしに従つてきなさい」と招いてくださつている神様を見つめ続けて信じ従いましょ。ノアのようにきっと、守つてくださいますから。

♪雄々しくあれ♪(福音子どもさんびか 82)



牧羊ひろば



福岡教会(油山シャローム教会) 教会学校

「御言を宣べ伝えなさい。時
が良くて悪くても」

Ⅱテモテ4・2

●はじめに

椿油が採れる椿の木がたくさん自生していたことから、山は油山と呼ばれるようになつたという…、その油山の麓に私たちの教会、油山シャローム・チャペルがあります。

緑と水に囲まれた自然豊かな地です。今では教会の周りには住宅が建ち並んでいます。

一九七二年の開拓当初から

教会学校の働きは熱心であつたと聞いています。教会学校

を横田武幸牧師先生に訴えましたところ、牧師先生は「今は静まりの時、祈りの時ですね」とお語りになりました。子どもが送られてこない時には、失望落胆してしまいます。が、実はこのような時も神様の恵みの時、祝福の時なのです。と悟りました。なぜなら、神様に祈ること、信頼すること、待ち望むことを教えられたからです。そして「時が良くて悪くても…」とのみ言葉に励まされて、教会学校の奉仕が続けられてきたことは本当に感謝です。

神様の恵みにより、最近また教会学校が子どもたちで賑わうようになってきています。教会が子どもたちの声で賑わうのは嬉しいものです。

最近の教会学校の様子と教会学校を支える教会の取り組み等を紹介させていただきます。

●教会学校の様子

日曜の朝八時四十五分、教師たちが心を合わせて子どもたちのため、奉仕者のために祈ります。九時に教会学校が始まります。現在出席者は幼稚科七～十名、小学科十～十三名、中学・高校科五名です。ほとんどがクリスチヤン家庭かお母さんがクリスチヤンの子どもたちです。礼拝では、

神様に賛美をささげ、牧羊者にそつてメッセージが語られ、み言葉をいただき、感謝の祈りと献金をおささげします。分級では、幼稚科はゲームや工作などを取り入れながら楽しく行っています。小学科は子どもたちの話に耳を傾け信頼関係を深めながら、み言葉を生活の中でどのように適用していくかを心がけています。十時過ぎに分級を終え、教師たちは再度集まり祈つて閉じます。

主日ごとの教会学校では何か特別のプログラムがあるわけではありません。教会学校の働きは種蒔きのようなのです。成長させてくださるのは神様です。そのことを信じ、愛と忍耐をもつて祈りながら奉仕させていただいているです。

●教会学校を支える教会の取り組み

①子どもサポーター 十時三十分より主日礼拝が始まります。子どもたちもお父さん、お母さんと一緒に主日礼拝にも出席します。子どもも大人も一緒に礼拝するのが、私たちの教会の伝統であり、それを大切にしています。しかし子どもですから、時には大きな声を出したり、動き回ったりします。そこで信徒の中から子どもサポーターを募り、



チルドレンズタイム

教会学校に来ていらない子どもたちが、チルドレンズタイムをきっかけに教会学校に来てくれるよう願っています。

③トドらすクラブ 地域のお母さん方のために、未就園児の子育て支援の活動を月一回行

子どもたち（特に求道中の）がお父さんやお母さんと一緒に礼拝できるよう見守り手助けしています。「子どもが騒いで心配せずに安心して礼拝の場に連れて来てください」と積極的に声をかけ、子どもたちを教会全体で受け入れ、温かい目で見守っています。子どもたちはその中で成長し、礼拝者として整えられて立っています。高校生たちは礼拝の奉仕の一部を担つて前列部の席について礼拝をささげています。幼い時から子どもたちを聖なる場に連れて來ることは、信仰継承にも大いに役立つていると思います。

②チルドレンズタイム 主日礼拝の中で子どもたちを前に集め、牧師先生が十分程度わかりやすくその日の礼拝メッセージを子ども向けて語られます。子どもたちは喜んで

メッセージに耳を傾けています。



●野芥シヤローム教会の土曜学校

一九九二年、高齢者グループホーム「ベウラの園」に隣接して、野芥シヤローム・チャペルが建てられました。そして信徒が中心となって野芥土曜学校が始まりました。たとえ出席する生徒が一人であっても、その一人の魂のために全力を注いでご奉仕がなされてきました。

背後には「ベウラの園」の六人のお婆様

ばあさま



トドら～ずクラブ

つていています。歌、手遊び、絵本の読み聞かせ、お母さんのための子育てに関するメッセージタームなどがあります。またお母さんたちの楽しい交流の場となっています。この働きを通して少しずつ教会学校につながる方も起こされてきています。



クリスマス会・ダンス練習



クリスマス降誕劇

- 主な年間行事
 - ①春のキャンプ 教会学校に来ている子どもたちを対象として、信仰の成長のためのプログラムを組んでいます。

方の篤い祈りがありました。（そのお婆様方も今は全員天に凱旋なさいました）。

そして、ついに土曜学校のクリスマス会に来た子どものお母さんが求道を始められ、昨年受洗されました。現在そのお母さんは救いの喜びに満たされ、子ども三人を連れて教会学校と主日礼拝に通っておられます。そして一年たった昨年の子どもクリスマス会の前日、校門の前でトラクト配布の奉仕を自ら進んでしてくださったり、ゲームを担当してくださったことは私たちみんなの大きな喜びでした。主の御名を崇めます。



②夏のキャンプ 近隣の子どもたちや未信者の家庭の子どもたちにも声をかけて参加を募っています。教会学校の生徒の中から受洗の決心をする子どもが起これられています。

③クリスマス会

近隣の小学校五校に案内チラシを配布して広

く誘っています。昨年のクリスマス会には子どもたちが五十名集まりました。教会学校の子どもたちは、クリスマス会の企画にも加わってもらっています。

④お誕生会 三ヶ月に一度、教会学校の中で行っています。誕生日の子どもたちはケーキを前に嬉しそうです。

●中高科の活動

中高科のレギュラーメンバーは五人ですが、それに四人の教師が加わって、温かい交わりの中で、日曜日の朝九時十分から十時まで、聖書と一緒に学んでいます。特に昨年の六月から、コーヒーブレイクというグループ聖書研究を始めました。聖書のテキストを読んだ後、担当の教師があ



人形劇「ヨナ(現代版)」



中高生バンド

らかじめ用意していた質問をもとに、生徒たちが自らみ言葉の真理に気づいていく学びです。最初は生徒が口を開くだろうかと心配した面もありましたが、始めた面もありましたが、始めた以上に生徒たちはしっかりとみ言葉を理解し、それを自らの言葉で表現してくれるのです。毎週、生徒たちの発言の中から教師たちが逆に教えられ、恵まれています。それと共に、子どもたちがどのようなところを通ってきたのか、現在どんなことを考えているのかもわかつて、生徒をより深く理解する助けにもなっています。

最初に取り上げたのは、ヨナ書でした。それを全部学び終わつた時、そこからヨナ書の現代版の人形劇を生徒たちが中心となつてつくりました。「聖イイズラエル高校のヨナ夫くん」が、校長先生



中学生クラス クリスマス高齢者訪問

の願いを振り切つて、樽志市行きのバスにうまく乗り込んだもの、そこに待っていたのは……!? 秋の教会の収穫感謝パーティーで上演したところ、大好評を博し、再演の要望が届いています。生徒たちが生き生きとみ言葉を土台にしながら歩もうとしていることを、教師たちはうれしく思います（現在は、創世記のヨセフの生涯を学んでいます）。

定期的な活動としては、月一回日曜日の午後に中高生会があり、ここでは特に交わりを中心とした楽しい時をもつたり、特別なイベントの計画を立てたりしています。昨年はバーベキュー大会やそうめん流しの会を開いて、心もお腹も一杯に満たされる時をもちました。背後で準備のために労してくださっている先生たちに、感謝しています。

昨年の中高生のクリスマス会では、クリスチヤンホームに招待していただき、文字どおりアットホームなクリスマス会となりました。おいしいご馳走をいただいた後、高齢や病気のために教会に来ることのできない方を訪問し、ク

リスマスソングのプレゼントをさせていただき、その方の

ために生徒たちがお祈りをささげました。

また高校生たちは、教会全体の奉仕にも加わっています。ある生徒は礼拝の賛美チームで奉仕をしたり、他の生徒たちはパワー・ポイントの奉仕をしています。このように、主を愛して、与える喜び、仕える喜びにますます満たされる中高科でありますと願っています。

● 教師会など

毎月第一日曜の午後に教師会をもち、子どもたちのためには遊び、祈り、活動について話し合っています。

毎月第四土曜の午後にはメッセージの学び会をしていました。幼稚科・小学科の責任者であるユン宣教師のご指導のもと、「牧羊者」を用いて一ヶ月分のメッセージ箇所を具体的に学んでいます。教師自身がみ言葉の養いを受け、み言葉への理解が深まり、さらに子どもたちにわかりやすくメッセージを語ることができるよう訓練していただけています。大変恵まれる時です。

教師の中には、いつもはつらつとして若々しく、信仰と知恵に満ちた田中郁子先生がいます。実はこの姉妹はなん



田中郁子先生

と九十才の現役教会学校教師なのです！長年、教会学校のご奉仕を続けてこられ、今もメッセージの御用をさせていただきます。

教師たちは「わたしの小羊を飼いなさい」とお声をかけ召してくださいました。主を信頼し、主と主の教会学校にお仕えしていきたいと祈り願っています。

(横田法路
服部祥子)

「だから、愛する兄弟たちよ。堅く立って動かされず、いつも全力を注いで主のわざに励みなさい。主にあつては、あなたがたの労苦がむだになることはないと、あなたがたは知っているからである」。 Iコリント15・58

—おわりに—

『牧羊者』二〇一一年度第一巻をお届けできますことを感謝します。執筆の方々には、年末年始、クリスマスのあわただしい中、貴重な時間を割いて執筆していただき、心から感謝いたします。今回は、新しい年度のカリキュラム解説と教師養成講座「今、求められるCS教師」を掲載しました。また、「牧羊ひろば」では、福岡教会の教会学校の歩みを紹介していました。終わりに今号の執筆者、奉仕者を紹介いたします。

研 究 資 料	聖 書 講 解	福井文彦師	高橋頼男師	金井信生師
メ ッセ ー ジ 例		井上義実師	宮澤清志師	中島啓一師
(A)		飯田勝彦師	和田治師	
(B)		松浦みち子師		
ワ ー ク (C)	吉田美穂師	野勢かほる師	竹崎光則師	
(D)	小泉創師	丹羽遙姉	田代美雪師	
中高科へのヒント	上森恭子師	楠淳子師	杉山俊一師	
子ども聖書日課	石田高保師	長尾秀紀師	長尾明美師	
フラッシュカード	小野淳子師	土屋直子師	藤井洋美師	
イ ラ ス ト	丹羽遙姉	長尾明美師		
ワープロ打ち込み	丹羽遙姉	光田隆代師	加藤清師	
校 正	楠淳子師			
	長尾秀紀師			

また、陰で労してくださった各師と兄弟姉妹、ワーカー印刷と発送のベラカ出版、印刷のあくとと菱三印刷に心から感謝いたします。

(長尾秀紀)

聖書教育教案誌 牧羊者

二〇一一年度 第一巻

二〇一一年四月一日発行

聖書教育教案誌 牧羊者	二〇一一年度 第一巻	二〇一一年四月一日発行
発行所	日本イエス・キリスト教団教会学校局	
企画監修	日本イエス・キリスト教団教会学校局	
印刷所	FAX(078)575-1551	
電話	菱三印刷株式会社	
電話	(078)576-1396	
*日本聖書協会	電話(078)576-1396	使用許諾済み